

設置計画の概要

事項	記入欄
事前相談事項	事前伺い
計画の区分	学部の学科の設置
フリガナ設置者	コカツダイガクホカシニ ニイガタイガク 国立大学法人 新潟大学
フリガナ大学の名称	ニイガタイガク 新潟大学 (Niigata University)
新設学部等において養成する人材像	<p>【農学部 農学科】</p> <p>① 養成する人材像 本学部は、食料生産・環境保全のみならず、食品科学、バイオテクノロジーに関する幅広い基礎学力と総合的応用力を備え、世界で活躍できる創造性豊かで広い視野を持った人材を養成し、農業、食品、バイオ産業等の農学系産業の振興とグローバルな展開、地域創生と地域活性化、地域および地球環境の維持改善に貢献する。さらに各主専攻プログラムにおいて、以下のような人材を養成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応用生命科学プログラムでは、農林畜産物の生産・利用や、食品・環境・農業・医薬品等の広範囲の対象について、日常生活に関連の深い生物・化学関連の研究、技術開発、教育等に携わる人材を養成する。 ・食品科学プログラムでは、世界トップクラスの米加工および酒造技術など、新潟の産官の食品分野とも連携し、食産業を中心として健康分野にまで及ぶ様々な場で活躍できる人材を養成する。 ・生物資源科学プログラムでは、自然の生態系を重視した農業のあり方と生産力のさらなる向上を目指し、国際的な視点も持ちながら農山村地域の発展方向を総合的に考えられる人材を養成する。 ・流域環境学プログラムでは、地域および地球規模での自然環境と調和した森林や流域の管理・経営と、地域の農業基盤の充実を通じて人間生活を豊かにできる人材を養成する。 ・フィールド科学人材育成プログラム(分野横断型)では、生態学と災害科学の知識と技術を合わせ持ち、それらを統合して多様なフィールドでの実践活動に活用できる人材を養成する。 <p>② 修得させる能力 創造性豊かで広い視野を持ち、食料生産と環境保全に関する農学分野の幅広い基礎学力と総合的応用力を備え、高い倫理観を持って多様化する社会の要請に柔軟に対応し得る能力を修得させる。さらに各主専攻プログラムにおいて、以下のような能力を修得させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応用生命科学プログラムでは、最新のバイオサイエンス・バイオテクノロジー・ゲノム科学等の高度な専門知識を学び、微生物・植物・動物の細胞及び分子レベルの幅広い生命現象の解析に活用できる実験技術を修得させる。 ・食品科学プログラムでは、食品成分・栄養素等の化学的基礎から、食品の原材料・加工・機能・衛生・調理、さらには消費者の食行動(購買・調理・摂取)、ヒトへの生理機能、免疫システム等に関する幅広い知識と技術を修得させる。 ・生物資源科学プログラムでは、動植物におけるバイオテクノロジー等の先端技術の開発と応用や、国際的な視点も有した農山村資源の総合的な利活用等に関する幅広い知識と技術を修得させる。 ・流域環境学プログラムでは、持続的な森林管理と生態系の保全や、食料生産の基盤整備と情報ネットワークの活用により、地域の自然環境と調和した持続的な農林業の生産活動に関する知識と技術を修得させる。 ・フィールド科学人材育成プログラム(分野横断型)では、理学部の基礎科学と農学部の応用科学の両面を合わせ持ち、環境問題・災害対策・生物多様性保全に係る複合的問題について、野外的様々な場面が必要とされるフィールド活動と課題解決能力を修得させる。 <p>③ 卒業後の進路等 ・応用生命科学プログラムの主な進路は、大学院博士前期課程への進学、食品・環境・農業・医薬品・化学等の企業、公的機関におけるバイオサイエンス・バイオテクノロジー部門などへの就職である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品科学プログラムの主な進路は、大学院博士前期課程への進学、食品・酒造等の食品関連企業、分析研究機関、化学系企業や、食品・農業・化学等の公務員などへの就職である。 ・生物資源科学プログラムの主な進路は、大学院博士前期課程への進学、農業・食品の企業、農業等の公務員・団体、農業経営に関するコンサルタント業務を手掛ける企業、金融機関・農業法人などへの就職である。 ・流域環境学プログラムの主な進路は、大学院博士前期課程への進学、森林・農業工学系の公務員(国家・地方)や団体、環境コンサルティングや総合建設業、造園・緑化・測量・システムエンジニアリング関係の企業などへの就職である。 ・フィールド科学人材育成プログラム(分野横断型)の主な進路は、大学院博士前期課程への進学、建設・環境コンサルタント、地理・気象情報サービス関連企業、エネルギー関連企業、公務員(林業・土木・環境・化学・行政)などへの就職である。
既設学部等において養成する人材像	<p>【農学部】 食料生産と環境保全に関する幅広い基礎学力と総合的応用力を備え、我が国のみならず世界で活躍できる、創造性豊かで広い視野を持った人材を育成する。</p> <p>【農学部 農業生産科学科】</p> <p>① 農業における生産力向上および農業と自然環境との調和、農山村地域の持続的発展に資する専門知識を有し、社会の変化に積極的に対応して農林業および関連産業や地域社会で活躍できる能力を備えた人材を養成する。</p> <p>② 自然の生態系を重視した農業のあり方と生産力の向上および農山村地域の発展方向を総合的に理解させる。バイオテクノロジーや遺伝子解析をはじめとする先端技術の開発と応用、農業生産環境や生態系の保全、さらに農山村資源の総合的な利活用等に関する幅広い知識と技能を修得させる。</p> <p>③ 主な進路は、大学院博士前期課程への進学、公務員(国家・地方)、農業関連(農業、農協、農業用資材・指導、農産物流通など)、食品関連(食品製造、食品流通・スーパー、外食産業など)、他業種(製造、金融、流通、医療・介護福祉)などへの就職である。</p> <p>【農学部 応用生物化学科】</p> <p>① 食品・医薬品・農業・環境等、日常生活に關係の深い生物・化学関連の研究、技術開発、教育などに携わる人材を養成する。</p> <p>② 農学部で扱うあらゆる生物、すなわち微生物・植物・動物の生命現象の解析、および農林畜産物・食品の生産・加工・利用などきわめて広範囲の対象に対して、主として化学的手法に基づいて問題解決を図る能力を身に付けさせる。最新のバイオサイエンス・バイオテクノロジー等、高度な専門知識や各種の実験技術を修得させる。</p> <p>③ 主な進路は、大学院博士前期課程への進学、公務員(国家・地方)、薬品関連(製薬、化粧品、ガス、分析、化学機器取扱など)、食品関連(食品製造、食品流通・販売、外食産業など)、農業関連(農協、製紙など)、他業種(金融、JR、電気メーカー)などへの就職である。</p> <p>【農学部 生産環境科学科】</p> <p>① 地域の自然環境と農林生産活動を科学的に理解し、これらを持続的に発展させうる能力と倫理観を備えた人材を養成する。</p> <p>② 地域の自然環境と調和した持続的な農林業の生産活動を目指し、食料生産のための基盤整備と情報ネットワークの活用、ならびに森林環境と地域生態系の保全や創出についての技術と知識を修得させる。当学科の2つのコースは常に社会との連携を念頭に置き、日本技術者教育認定機構(JABEE)から「技術者教育プログラム」として公的な認定を受けている。</p> <p>③ 主な進路は、大学院博士前期課程への進学、公務員(国家・地方)、建設コンサルタント関連(道路・河川・砂防・公園などの計画・設計、地域・まちづくりなど仕組みづくり、環境アセスメントなど)、農業・食品関連(農業、農業機械など)、森林関連(森林組合・森林組合連合会、製紙など)、他業種(金融、交通、システム開発、サービス、流通)などへの就職である。</p>

新設学部等において 取得可能な資格	<p>【農学部 農学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校教員1種(農業) <ul style="list-style-type: none"> ① 国家資格, ② 資格取得可能, ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか, 教職関連科目の履修が必要 ・食品衛生管理者 <ul style="list-style-type: none"> ① 国家資格, ② 資格取得可能, ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか, 厚労省が定める基準に基づく修得科目表に対応した科目の履修が必要 ・食品衛生監視員 <ul style="list-style-type: none"> ① 国家資格, ② 資格取得可能, ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか, 厚労省が定める基準に基づく修得科目表に対応した科目の履修が必要 ・危険物取扱者(甲種) <ul style="list-style-type: none"> ① 国家資格, ② 実務経験が免除され, 受験資格取得, ③ 卒業要件単位に含まれる科目の履修が必要 ・家畜人工授精師 <ul style="list-style-type: none"> ① 国家資格, ② 資格取得可能, ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか, 家畜人工授精師に関する講習会の受講が必要 ・自然再生士補 <ul style="list-style-type: none"> ① 任意団体(一般財団法人)資格, ② 資格取得可能, ③ 卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能 ・森林情報士2級 <ul style="list-style-type: none"> ① 任意団体(一般社団法人)資格, ② 資格取得可能, ③ 卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能 ・GIS 学術士 <ul style="list-style-type: none"> ① 任意団体(公益社団法人)資格, ② 資格取得可能, ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか, 公益社団法人日本地理学会が定める基準に基づく修得科目表に対応した科目の履修が必要
----------------------	--

既設学部等において 取得可能な資格	<p>【農学部 農業生産科学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校教員1種(農業) <ul style="list-style-type: none"> ① 国家資格, ② 資格取得可能, ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか, 教職関連科目の履修が必要 ・家畜人工授精師 <ul style="list-style-type: none"> ① 国家資格, ② 資格取得可能, ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか, 家畜人工授精師に関する講習会の受講が必要 <p>【農学部 応用生物化学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校教員1種(理科) <ul style="list-style-type: none"> ① 国家資格, ② 資格取得可能, ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか, 教職関連科目の履修が必要 ・食品衛生管理者 <ul style="list-style-type: none"> ① 国家資格, ② 資格取得可能, ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか, 厚労省が定める基準に基づく修得科目表に対応した科目の履修が必要 ・食品衛生監視員 <ul style="list-style-type: none"> ① 国家資格, ② 資格取得可能, ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか, 厚労省が定める基準に基づく修得科目表に対応した科目の履修が必要 ・フードスペシャリスト <ul style="list-style-type: none"> ① 任意団体(公益社団法人)資格, ② 受験資格取得, ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか, 認可法人が定める基準に基づく修得科目表に対応した科目の履修が必要 ・危険物取扱者(甲種) <ul style="list-style-type: none"> ① 国家資格, ② 実務経験が免除され, 受験資格取得, ③ 卒業要件単位に含まれる科目の履修が必要 <p>【農学部 生産環境科学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校教員1種(農業) <ul style="list-style-type: none"> ① 国家資格, ② 資格取得可能, ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか, 教職関連科目の履修が必要 ・測量士補 <ul style="list-style-type: none"> ① 国家資格, ② 資格取得可能, ③ 卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能 ・技術士補 <ul style="list-style-type: none"> ① 国家資格, ② 資格取得可能, ③ 卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能 ・樹木医補 <ul style="list-style-type: none"> ① 任意団体(一般財団法人)資格, ② 資格取得可能, ③ 卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能 ・自然再生士補 <ul style="list-style-type: none"> ① 任意団体(一般財団法人)資格, ② 資格取得可能, ③ 卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能 ・森林情報士2級 <ul style="list-style-type: none"> ① 任意団体(一般社団法人)資格, ② 資格取得可能, ③ 卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能 ・GIS 学術士 <ul style="list-style-type: none"> ① 任意団体(公益社団法人)資格, ② 資格取得可能, ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか, 公益社団法人日本地理学会が定める基準に基づく修得科目表に対応した科目の履修が必要
----------------------	---

新設学部等の概要	新設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員		
	学位又は称号	学位又は学科の分野					異動元	助教以上		うち教授		
既設学部等の概要	農学部 [Faculty of Agriculture]	農学科 [Department of Agriculture]	4	175	3年次 10	720	学士 (農学)	農学関係	平成29年 4月 1年次	農学部農業生産科学科	18	7
									農学部応用生物化学科	14	5	
									農学部生産環境科学科	20	5	
									新規採用	5	5	
	計	57	22									
農学部	農業生産科学科 (廃止)	4	55	220	学士 (農学)	農学関係	平成3年 4月	農学部農学科	18	7		
								退職	1	1		
								計	19	8		
	応用生物化学科 (廃止)	4	50	200	学士 (農学)	農学関係	平成3年 4月	農学部農学科	14	5		
退職								1	1			
計	15	6										
生産環境科学科 (廃止)	4	50	200	学士 (農学)	農学関係	平成3年 4月	農学部農学科	20	5			
							退職	3	3			
計	23	8										
(学部共通)	-	-	3年次 10	20	-	-	-	-	-	-		
計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

【備考欄】

同一設置者内における変更状況（定員の移行, 名称の変更等）

- 平成29年4月 教育学部の一部課程を学生募集停止

教育学部

学習社会ネットワーク課程	△ 45
生活科学課程	△ 15
健康スポーツ科学課程	△ 30
芸術環境創造課程	△ 60

- 平成29年4月 理学部を次のとおり移行予定

(改組前)		(改組後)	
理学部	定員	理学部	定員
数学科	35	理学科	200
物理学科	45		
化学科	35		
生物学科	20		
地質科学科	25		
自然環境科学科	30		
(3年次編入)	10)	(3年次編入)	10)
計	190	計	200

- 平成29年4月 歯学部編入学(年次)変更

歯学部

歯学科	
(3年次編入学定員)	△ 5)
(2年次編入学定員)	5)

- 平成29年4月 工学部を次のとおり移行予定

(改組前)		(改組後)	
工学部	定員	工学部	定員
機械システム工学科	88	工学科	530
電気電子工学科	73		
情報工学科	64		
福祉人間工学科	50		
化学システム工学科	78		
建設学科	78		
機能材料工学科	49		
(3年次編入)	20)	(3年次編入)	20)
計	480	計	530

- 平成29年4月 学部の設置予定

創生学部

創生学修課程	65
(平成28年3月意見伺い提出)	

- 平成29年4月 教育学研究科の修士課程を学生募集停止

教育学研究科

修士課程	
学校教育専攻[廃止]	△ 5
教科教育専攻[廃止]	△ 27

- 平成29年4月 技術経営研究科を学生募集停止

技術経営研究科

専門職学位課程	
技術経営専攻[廃止]	△ 20

教育課程等の概要

農学部農学科(教養教育に関する授業科目)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
教養教育に関する授業科目	英語	アカデミック英語(リーディング)	1①～②	1			○									兼20	
		アカデミック英語(リスニング)	1①～②	1			○									兼12	
		基礎英語	1・2③～④	1			○									兼13	
		アカデミック英語(ライティング)	1・2③～④	1			○									兼20	
		理工英語読解	1・2・3・4①～②③～④		1					○						兼12	
		応用英語	1・2・3・4①～②③～④		2					○						兼3	
		入門医療英語	1・2・3・4③～④		1					○						兼2	
		発展英語	1・2・3・4①～②③～④		2					○						兼10	
		英語表現セミナーA	1・2・3・4①～②③～④		2					○						兼1	
		Combination Class:Content & Skills 1	1・2・3・4①～②		1					○						兼2	
		Topic Based Presentation Skills	1・2・3・4③～④		1					○						兼2	
		Combination Class:Content & Skills 2	1・2・3・4③～④		1					○						兼2	
		Intercultural Communication 1	1・2・3・4③～④		1					○						兼1	
		Intercultural Communication 2	1・2・3・4①～②		1					○						兼1	
		Content Lecture	1・2・3・4①～②		1					○						兼1	
		Language Lab 2	1・2・3・4①～②		1					○						兼1	
		Topic Based Research Project Class	1・2・3・4①～②		1					○						兼2	
		実践英語	1・2・3・4③～④		1					○						兼3	
	小計(18科目)	—	4	17	0										兼46		
初修外国語	外国語ベーシック I (1) 独語仏語伊語	1・2①～②		2			○								兼3	オムニバス	
	外国語ベーシック I (2) 独語西語露語	1・2①～②		2			○								兼3	オムニバス	
	外国語ベーシック I (3) 独語仏語中語	1・2①～②		2			○								兼3	オムニバス	
	外国語ベーシック I (4) 中語朝語印ト 初7語	1・2①～②		2			○								兼3	オムニバス	
	外国語ベーシック I (5) (文字論)	1・2①～②		2			○								兼1		
	ドイツ語インテンシブ I	1・2①～②		4			○								兼3		
	ドイツ語インテンシブ II	1・2③～④		4			○								兼3		
	ドイツ語スタンダード I	1・2①～②		3			○								兼4		
	ドイツ語スタンダード II	1・2③～④		3			○								兼4		
	ドイツ語ベーシック II	1・2③～④		3			○								兼6	オムニバス	
	コミュニケーション・ドイツ語 A	1・2①～②		2			○								兼1		
	コミュニケーション・ドイツ語 B	1・2①～②		2			○								兼1		
	コミュニケーション・ドイツ語 C	1・2①～②		2			○								兼1		
	コミュニケーション・ドイツ語 D	1・2①～②		2			○								兼1		
	コミュニケーション・ドイツ語 F	1・2③～④		2			○								兼1		
	コミュニケーション・ドイツ語 H	1・2③～④		2			○								兼1		
	ドイツ語セミナー A	1・2①～②		2			○								兼1		
	ドイツ語セミナー B	1・2①～②		2			○								兼1		
	ドイツ語セミナー C	1・2③～④		2			○								兼1		
	ドイツ語セミナー D	1・2③～④		2			○								兼1		
	フランス語インテンシブ I	1・2①～②		4			○								兼1		
	フランス語インテンシブ II	1・2③～④		4			○								兼1		
	フランス語スタンダード I	1・2①～②		3			○								兼3		
	フランス語スタンダード II	1・2③～④		3			○								兼3		
	フランス語ベーシック II	1・2③～④		3			○								兼2		
	コミュニケーション・フランス語 C	1・2①～②		2			○								兼1		
	コミュニケーション・フランス語 H	1・2③～④		2			○								兼1		
	ロシア語インテンシブ I	1・2①～②		4			○								兼1		
	ロシア語インテンシブ II	1・2③～④		4			○								兼1		
	ロシア語スタンダード I	1・2①～②		3			○								兼1		
	ロシア語スタンダード II	1・2③～④		3			○								兼1		
	ロシア語ベーシック II	1・2③～④		3			○								兼1		
	コミュニケーション・ロシア語 B	1・2①～②		2			○								兼1		
	コミュニケーション・ロシア語 C	1・2③～④		2			○								兼1		
	ロシア語セミナー A	1・2①～②		2			○								兼1		
	中国語インテンシブ I	1・2①～②		4			○								兼2		
	中国語インテンシブ II	1・2③～④		4			○								兼2		
	中国語スタンダード I	1・2①～②		3			○								兼5		
	中国語スタンダード II	1・2③～④		3			○								兼5		
	中国語ベーシック II	1・2③～④		3			○								兼1		
	コミュニケーション・中国語 A	1・2①～②		2			○								兼1		
	コミュニケーション・中国語 B	1・2①～②		2			○								兼1		
	コミュニケーション・中国語 D	1・2③～④		2			○								兼1		
	コミュニケーション・中国語 F	1・2③～④		2			○								兼1		
	上海語演習	1・2③～④		2			○								兼1		
	朝鮮語インテンシブ I	1・2①～②		4			○								兼2	オムニバス	
	朝鮮語インテンシブ II	1・2③～④		4			○								兼3	オムニバス	
朝鮮語スタンダード I	1・2①～②		3			○								兼1			
朝鮮語スタンダード II	1・2③～④		3			○								兼1			
朝鮮語ベーシック II	1・2③～④		3			○								兼1			
コミュニケーション・朝鮮語 A	1・2①～②		2			○								兼1			
コミュニケーション・朝鮮語 B	1・2①～②		2			○								兼1			
コミュニケーション・朝鮮語 C	1・2③～④		2			○								兼1			
コミュニケーション・朝鮮語 D	1・2③～④		2			○								兼1			
朝鮮語セミナー A	1・2①～②		2			○								兼1			
朝鮮語セミナー B	1・2③～④		2			○								兼1			
スペイン語スタンダード I	1・2①～②		3			○								兼1			
スペイン語スタンダード II	1・2③～④		3			○								兼1			
スペイン語スタンダード III	1・2①～②		1			○								兼1			
スペイン語スタンダード IV	1・2③～④		1			○								兼1			
スペイン語ベーシック II	1・2③～④		3			○								兼2	オムニバス		
コミュニケーション・スペイン語 A	1・2①～②		2			○								兼1			
コミュニケーション・スペイン語 B	1・2③～④		2			○								兼1			
スペイン語セミナー A	1・2①～②		2			○								兼1			
イタリア語ベーシック II	1・2③～④		3			○								兼1			
イタリア語セミナー A	1・2③～④		2			○								兼1			
インドネシア語ベーシック II	1・2③～④		3			○								兼1			
外国語スペシャル A	1・2①～②		2			○								兼1			
外国語スペシャル B	1・2①～②		2			○								兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育に関する授業科目	中国語学特殊講義	1・2・3・4③④		2		○								兼1	オムニバス
	日本文化入門 1	1・2・3・4③④		2		○								兼7	
	ピアサポート入門	1・2・3・4③④		2		○								兼1	
	ダブルホーム活動入門	1・2・3・4①②		2			○							兼1	
	アクティブラーニングⅠ	1・2・3・4①②③④		2		○								兼1	
	アクティブラーニングⅡ	1・2・3・4①②③④		2		○								兼1	
	アクティブラーニングⅢ	1・2・3・4①②③④		2		○								兼1	
	ICT活用と価値の情報化A	1・2・3・4①②		1		○								兼1	
	ICT活用と価値の情報化B	1・2・3・4①②		1		○								兼1	
	小計(68科目)	—	0	129	0	—			4	2		3		兼82	
	留学生基本科目	日本語A	1・2・3・4①②		1		○								
日本語B		1・2・3・4①②		1		○								兼1	
日本語C		1・2・3・4①②		1		○								兼1	
日本語D		1・2・3・4①②		1		○								兼1	
日本語E		1・2・3・4③④		1		○								兼1	
日本語F		1・2・3・4③④		1		○								兼1	
日本語G		1・2・3・4③④		1		○								兼1	
日本語H		1・2・3・4③④		1		○								兼1	
日本事情人文系B		1・2・3・4①②③④		2		○								兼2	
日本事情自然系A		1・2・3・4①②		2		○								兼1	
小計(10科目)	—	0	12	0	—								兼4		
大学学習法	スタディ・スキルズA 1	1①		2		○		7	5		5				
	スタディ・スキルズA 2	1①		2		○		5	9		1				
	スタディ・スキルズA 3	1①		2		○		3	8		5				
	小計(3科目)	—	0	6	0	—		15	22		11				
自然系共通専門基礎	数学基礎A	1・2・3・4①②③④		2		○								兼5	オムニバス
	数学基礎B	1・2・3・4①②③④		2		○								兼3	
	統計学基礎	1・2・3・4①②③④		2		○								兼2	
	物理学入門	1・2・3・4①②		2		○								兼1	
	物理学基礎AⅠ	1・2・3・4①②		2		○								兼5	
	物理学基礎AⅡ	1・2・3・4③④		2		○								兼4	
	物理学基礎BⅠ	1・2・3・4①②		2		○								兼3	
	物理学基礎BⅡ	1・2・3・4③④		2		○								兼1	
	物理学基礎D	1・2・3・4③④		2		○								兼1	
	化学基礎A	1・2・3・4①②③④		2		○								兼3	
	化学基礎B	1・2・3・4①②③④		2		○								兼4	
	化学基礎C	1・2・3・4①②③④		2		○								兼2	
	生物学基礎A	1・2・3・4①②③④		2		○								兼4	
	生物学基礎B	1・2・3・4①②③④		2		○								兼5	
	地学基礎A	1・2・3・4①②③④		2		○								兼2	
	地学基礎B	1・2・3・4③④		2		○								兼2	
	地学基礎C	1・2・3・4③④		2		○								兼2	
小計(17科目)	—	0	34	0	—								兼33		
自然科学	くらしと数理	1・2・3・4①②		2		○								兼4	オムニバス
	基礎数学AⅠ	1・2・3・4①②		2		○								兼1	
	基礎数学AⅡ	1・2・3・4③④		2		○								兼1	
	基礎数学BⅠ	1・2・3・4①②		2		○								兼1	
	基礎数学BⅡ	1・2・3・4③④		2		○								兼1	
	基礎数理AⅠ	1・2・3・4①②		2		○								兼5	
	基礎数理AⅡ	1・2・3・4③④		2		○								兼5	
	代数・幾何の数理	1・2・3・4①②		2		○								兼1	
	数学の世界	1・2・3・4③④		2		○								兼4	
	極微の世界	1・2・3・4①②		2		○								兼1	
	物質の世界	1・2・3・4③④		2		○								兼1	
	物理学への招待A	1・2・3・4①②		2		○								兼1	
	物理学への招待B	1・2・3・4③④		2		○								兼1	
	物理学基礎実験	1・2・3・4①②③④		2		○		○						兼5	
	化学実験	1・2・3・4①②		2		○		○						兼5	
	生物学—動物A—	1・2・3・4③④		2		○		○						兼1	
	生物学—細胞・分子A—	1・2・3・4③④		2		○		○						兼1	
	生物学—生物多様性A—	1・2・3・4③④		2		○		○						兼2	
	生物学—植物A—	1・2・3・4①②		2		○		○						兼2	
	生物学実験Ⅰ	1・2・3・4①②		2		○		○						兼1	
	地球と気象	1・2・3・4③④		2		○		○						兼1	
	地学C(マグマと火山)	1・2・3・4③④		2		○		○						兼2	
	地学E(地球理解の諸相)	1・2・3・4③④		2		○		○						兼1	
	地学概論A	1・2・3・4①②③④		2		○		○						兼2	
	地学概論B	1・2・3・4③④		2		○		○						兼1	
	地学実験A	1・2・3・4①②		2		○		○						兼2	
	地学実験B	1・2・3・4①②		2		○		○						兼2	
	地学実験C	1・2・3・4③④		2		○		○						兼2	
	数理基礎演習Ⅰ	1・2・3・4①②		1		○		○						兼2	
	数理基礎演習Ⅱ	1・2・3・4③④		1		○		○						兼2	
	グリーンケミストリー入門	1・2・3・4③④		2		○		○						兼4	
	基礎雪氷学	1・2・3・4①②		2		○		○						兼4	
	生活の化学	1・2・3・4③④		2		○		○						兼1	
	社会を支える有機化学	1・2・3・4③④		2		○		○						兼1	
	コンピュータへの招待	1・2・3・4①②		2		○		○						兼5	
	高福祉社会を支える「生活支援学」入門	1・2・3・4①②		2		○		○						兼5	
最先端技術を支える化学Ⅰ	1・2・3・4①②		2		○		○						兼7		
生活を支える化学技術—化学工学への招待—	1・2・3・4①②		2		○		○						兼3		
エレクトロニクスへの招待	1・2・3・4①②		2		○		○						兼9		
エレクトロニクス入門	1・2・3・4①②		2		○		○						兼11		
くらしと環境	1・2・3・4①②		2		○		○						兼14		
くらしを支える機械システム工学	1・2・3・4③④		2		○		○						兼14		
機能材料化学概論	1・2・3・4③④		2		○		○						兼4		
小計(43科目)	—	0	84	0	—								兼138		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育に関する授業科目	ビジネス書道入門	1・2・3・4①②③④		2		○									兼1	
	フランス語オプショナルA	1・2・3・4①②		2											兼1	
	ロシア語オプショナルA	1・2・3・4③④		2			○								兼1	
	中国語オプショナルA	1・2・3・4①②		2			○								兼1	
	朝鮮語オプショナルA	1・2・3・4③④		2											兼1	
	演劇入門	1・2・3・4③④		2			○								兼1	
	音と音楽をめぐる科学的教養	1・2・3・4①②		2			○								兼1	
	音楽E	1・2・3・4①②		2			○								兼1	
	音楽F	1・2・3・4③④		2			○								兼1	
	音楽R	1・2・3・4③④		2			○								兼2	オムニバス
	外国語アネックスA	1・2・3・4③④		2			○								兼1	
	外国語アネックスB	1・2・3・4③④		2			○								兼1	
	外国語アネックスC	1・2・3・4③④		2			○								兼1	
	感性学	1・2・3・4①②		2			○								兼11	オムニバス
	基礎情報論	1・2・3・4①②		2			○								兼1	
	技術日本語演習	1・2・3・4①②		2				○							兼2	オムニバス
	教養の心理学	1・2・3・4①②		2			○								兼1	
	現代思想論	1・2・3・4③④		2			○								兼1	
	現代社会論	1・2・3・4①②		2			○								兼1	
	社会学とは何か	1・2・3・4①②		2			○								兼1	
	社会学的思考法	1・2・3・4①②		2			○								兼1	
	宗教思想史入門	1・2・3・4③④		2			○								兼1	
	心と社会	1・2・3・4①②		2			○								兼1	
	心の科学	1・2・3・4①②		2			○								兼1	
	心理学	1・2・3・4①②		2			○								兼1	
	心理学概論	1・2・3・4①②		2			○								兼1	
	人文社会情報論	1・2・3・4③④		2			○								兼1	
	人文超域科目D	1・2・3・4③④		2			○								兼5	オムニバス
	西洋文化研究演習A	1・2・3・4①②		2				○							兼1	
	対人行動の心理学	1・2・3・4③④		2			○								兼1	
	知識のバルナツォス論	1・2・3・4①②		2			○								兼1	
	哲学への招待	1・2・3・4③④		2			○								兼1	
	哲学演習	1・2・3・4③④		2			○								兼1	
	日本近代文学D	1・2・3・4①②		2			○								兼1	
	日本古典文学K	1・2・3・4①②		2			○								兼1	
	日本古典文学N	1・2・3・4③④		2			○								兼2	
	日本語教育Ⅰ-A	1・2・3・4①②		2			○								兼1	
	日本語教育Ⅰ-B	1・2・3・4③④		2			○								兼1	
	日本語教育Ⅱ-A	1・2・3・4①②		2			○								兼1	
	日本語教育Ⅱ-B	1・2・3・4③④		2			○								兼1	
	日本文化論	1・2・3・4③④		2			○								兼2	オムニバス
	日本文化論演習B	1・2・3・4③④		2				○							兼1	
	乳幼児心理学	1・2・3・4③④		2			○								兼1	
	認知と行動	1・2・3・4①②		2			○								兼1	
	紛争の心理学	1・2・3・4③④		2			○								兼1	
	文学D	1・2・3・4③④		2			○								兼1	
	領域融合・超域科目A	1・2・3・4①②		2			○								兼9	オムニバス
	領域融合・超域科目B	1・2・3・4③④		2			○								兼1	
	領域融合・超域科目E	1・2・3・4③④		2			○								兼1	
	領域融合・超域科目G	1・2・3・4③④		2			○								兼5	オムニバス
	領域融合・超域科目I	1・2・3・4③④		2			○								兼1	
	領域融合・超域科目P	1・2・3・4①②		2			○								兼2	オムニバス
	臨床心理学入門	1・2・3・4③④		2			○								兼1	
	歴史学G	1・2・3・4③④		2			○								兼1	
	歴史学I	1・2・3・4①②		2			○								兼1	
	歴史学K	1・2・3・4③④		2			○								兼1	
	歴史学Q	1・2・3・4③④		2			○								兼1	
	歴史学S	1・2・3・4③④		2			○								兼1	
	歴史学W	1・2・3・4①②		2			○								兼1	
	美術史	1・2・3・4③④		2			○								兼1	
	芸術論入門	1・2・3・4①②		2			○								兼1	
	リーガル・システムA	1・2・3・4①②		2			○								兼9	オムニバス
	リーガル・システムB	1・2・3・4①②		2			○								兼9	オムニバス
	日本国憲法B	1・2・3・4①②		2			○								兼1	
	日本国憲法D	1・2・3・4③④		2			○								兼1	
	特殊講義(戦後政治)	1・2・3・4③④		2			○								兼1	
	税法入門	1・2・3・4①②		2			○								兼1	
	まちづくり論入門	1・2・3・4③④		2			○								兼1	
	アジア経済入門	1・2・3・4①②		2			○								兼1	
	ロシア政治経済入門	1・2・3・4③④		2			○								兼1	
	小計(70科目)	—	—	0	140	0	—	—	—	—	—	—	—	—	兼74	—
	医学	医学序説Ⅰ	1・2・3・4①②		2		○								兼1	
		医学序説Ⅱ	1・2・3・4③④		2		○								兼1	
健康と医学		1・2・3・4③④		2		○								兼4	オムニバス	
メディカルサイエンス		1・2・3・4③④		1		○								兼1		
生命倫理		1・2・3・4③④		1		○								兼1		
医事法制		1・2・3・4③④		1		○								兼1		
社会保険		1・2・3・4③④		1		○								兼1		
病院管理学		1・2・3・4③④		1		○								兼1		
医療と画像技術		1・2・3・4③④		2		○								兼7	オムニバス	
医学と医療の歴史		1・2・3・4③④		2		○								兼7	オムニバス	
ケアの基本理念と実際		1・2・3・4③④		2		○								兼11	オムニバス	
先端医学研究概説		1・2・3・4①②		2		○								兼1		
医療と放射線		1・2・3・4①②		2		○								兼6	オムニバス	
医療と法		1・2・3・4①②		2		○								兼7	オムニバス	
医療ボランティア論		1・2・3・4③④		1		○								兼2	オムニバス	
顔		1・2・3・4③④		2		○								兼3	オムニバス	
健康福祉学入門		1・2・3・4①②		2		○								兼14	オムニバス	
新潟福祉学「食べる」		1・2・3・4③④		2		○								兼7	オムニバス	
小計(19科目)		—	—	0	32	0	—	—	—	2	—	—	—	—	兼68	—
合計(347科目)	—	—	4	685	0	—	—	—	6	2	—	—	—	兼441	—	

教育課程等の概要(事前伺い)

(農学部農学科 応用生命科学プログラム)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	別紙のとおり (4頁～7頁)															
専門教育に関する授業科目	農学部共通基礎科目 入門科目 農学入門Ⅰ	1①	2			○			6	8				兼1	オムニバス	
	農学入門Ⅱ	1①	2			○			5	7		3			オムニバス	
	基礎農林学実習	2②	1					○	2	2		2		兼1	オムニバス	
	小計(3科目)	—	5	0	0	—			13	16	0	5	0	兼2	—	
	主題科目 新潟の農林業	1③		2		○			3	5		2			オムニバス	
	食と健康の科学	1④		2		○			3	4				兼2	オムニバス	
	土と水	1④		2		○			4	8		2			オムニバス	
	農業資源を知る	2①		2		○			5	3		4			オムニバス	
	生命を知る	2①		2		○			4	8		1		兼1	オムニバス	
	生態系を知る	2②		2		○			2	3		1			オムニバス	
	小計(6科目)	—	0	12	0	—			19	24	0	10	0	兼3	—	
	専門基礎科目	生物化学Ⅰ	2③	2			○			1						
		微生物学	2③	2			○				1					
		土壌学概論	2③	2			○				1					
		有機化学(農)	2③	2			○				1					
食品化学		2③	2			○			1							
分析化学(農)		2④	2			○				2					オムニバス	
生物化学Ⅱ		2④	2			○			1							
植物栄養生理学		2④	2			○			1							
植物成分化学		2④	2			○				1						
分析化学実験(農)		2④	2					○	1	2					オムニバス	
生物学実験		3①	2					○	1	1					オムニバス	
生物化学実験		3①	2					○	3	2					オムニバス	
遺伝子工学		3②	2			○				1						
微生物学実験		3②	2					○		2						
有機化学実験(農)	3②	2					○		2					オムニバス		
小計(15科目)	—	30	0	0	—			5	9	0	0	0		—		
専門科目	応用生命科学実験	3③～④	2					○	3	6				兼1	集中	
	応用生命科学演習Ⅰ	4①～②	2				○		3	6				兼1	集中	
	応用生命科学演習Ⅱ	4③～④	2				○		3	6				兼1	集中	
	植物遺伝学	2③		2		○					1					
	動物遺伝学	2④		2		○			1							
	応用微生物学	2・3④		2		○				1						
	植物環境応答学	3・4①		2		○				1						
	生物有機化学	3・4①		2		○				1						
	肥科学	3・4①		2		○			1					兼1	オムニバス	
	分子微生物学	3・4①		2		○				1						
	酵素化学	3・4①		2		○			1							
	植物ウイルス学	3・4①		2		○				1						
	細胞分子生物学	3・4②		2		○			1							
	土壌生化学	3・4②		2		○				1						
植物バイオマス利用科学	3・4②		2		○				1							
植物細胞工学	3・4②		2		○								兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育に関する授業科目	動物発生生殖学	3・4②		2		○						1			兼1 集中 オムニバス オムニバス 兼2 オムニバス 兼1	
	応用生命科学セミナー	3・4②		1		○										
	植物育種学Ⅰ	3・4③		2		○			1							
	動物遺伝増殖学	3・4③		2		○			1		1					
	免疫学概論	3・4③		2		○				1						
	生物統計学	3・4③		2		○				2						
	醸造学	3・4③		2		○										
	花卉園芸学	3・4③		2		○										
	小計(24科目)	—	6	41	0	—			5	9	0	2	0	兼4	—	
	就業力育成科目	キャリアビジョン研修	1②		8				○	1						兼1
		地域交流サテライト実習	1②		1				○	8	9		2			
		基礎農力	2②		1		○			1						
		学科インターンシップ	3②		2				○		8					
		応用農力	4②		1		○			1						
	小計(5科目)	—	0	13	0	—			8	16	0	2	0	兼1	—	
	グローバル科目	科学英語演習	3③	2				○		3	6					兼1 兼1 兼1
		技術コミュニケーション入門	3④		2			○			1					
		海外語学研修	3・4②		4			○		2	3					
		グローバル農力	3・4②		3			○		4	3					
		グローバル防災・復興学	3・4②		3			○		4	3					
	小計(5科目)	—	2	12	0	—			7	12	0	0	0	兼2	—	
	卒業論文	卒業論文Ⅰ	4①～②	3				○		3	6					兼1 兼1 兼1
		卒業論文Ⅱ	4③～④	3				○		3	6					
		小計(2科目)	—	6	0	0	—			3	6	0	0	0	兼1	
教職・基礎科目	職業指導(農)	2・3②			2	○									兼1 集中 オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス	
	基礎物理学	1①		1		○				4						
	基礎化学	1①		1		○			2	6						
	基礎生物学	1①		1		○			2							
	基礎地学	1①		1		○			1	3						
	小計(5科目)	—	0	0	6	—			5	13	0	0	0	兼1		—
合計(65科目)			—	49	78	6	—		20	24	0	11	0	兼9	—	
学位又は称号		学士(農学)			学位又は学科の分野			農学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
(卒業要件) 教養教育科目35単位以上、専門教育科目85単位以上、合計124単位以上を修得すること。 (履修方法) 1. 教養教育に関する科目として、大学学習法(2単位)、英語(4単位以上)、初修外国語(4単位以上)、健康・スポーツ(1単位以上)、情報リテラシー(2単位以上)、新潟大学個性化科目/人文社会・教育科学(10単位以上)、自然系共通専門基礎/自然科学/医歯学(10単位以上)を履修する。 2. 専門教育に関する科目として、農学部共通基礎科目の必修科目である入門科目(5単位)を修得し、主題科目6単位以上、専門基礎科目から講義科目20単位、専門科目から講義科目24単位以上、専門基礎科目及び専門科目から演習、実験・実習科目16単位、就業力育成科目1単位以上、グローバル科目2単位以上、卒業論文6単位を履修する(必修科目49単位、選択必修科目31単位、選択科目5単位以上)。 (履修科目の登録の上限:48単位(年間))								1学年の学期区分		4ターム						
								1学期の授業期間		8週						
								1時限の授業時間		90分						

教育課程等の概要(事前伺い)

(農学部農学科 食品科学プログラム)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専修教育に 関係する 科目	別紙のとおり (4頁～7頁)																
専門教育に 関する 授業科目	農学部 共通 基礎 科目	農学入門Ⅰ	1①	2			○			6	8				兼1	オムニバス	
		農学入門Ⅱ	1①	2			○			5	7		3			オムニバス	
		基礎農林学実習	2②	1					○	2	2		2			兼1	オムニバス
		小計(3科目)	—	5	0	0	—			13	16	0	5	0	兼2	—	
		主題 科目	新潟の農林業	1③		2		○			3	5		2		兼2	オムニバス
			食と健康の科学	1④		2		○			3	4				兼2	オムニバス
			土と水	1④		2		○			4	8		2			オムニバス
			農業資源を知る	2①		2		○			5	3		4			オムニバス
			生命を知る	2①		2		○			4	8		1		兼1	オムニバス
			生態系を知る	2②		2		○			2	3		1			オムニバス
			小計(6科目)	—	0	12	0	—		19	24	0	10	0	兼3	—	
		専門 基礎 科目	生物化学Ⅰ	2③	2			○			1						
			微生物学	2③	2			○				1					
			有機化学(農)	2③	2			○				1					
			食品化学	2③	2			○			1					兼1	オムニバス
			食品工学	2③	2			○				1					オムニバス
			分析化学(農)	2④	2			○				2					オムニバス
			動物栄養学	2④	2			○				1					
			食品マーケティング論	2④	2			○			1						
		食品衛生学	2④	2			○			1							
		分析化学実験(農)	2④	2					○	1	2					オムニバス	
		農産食品学	2④	2			○			1	1					オムニバス	
		食品安全学	3①	2			○								兼1		
		畜産食品学	3①	2			○			1							
		生物学実験	3①	2					○	1	1					オムニバス	
		生物化学実験	3①	2					○	3	2					オムニバス	
		遺伝子工学	3②	2			○				1						
		食品機能学	3②	2			○				1						
		微生物学実験	3②	2					○		2						
		有機化学実験(農)	3②	2					○		2					オムニバス	
		小計(19科目)	—	38	0	0	—		7	10	0	0	0	兼2	—		
専門 科目		食品科学演習Ⅰ	4・①～②	2				○		3	4						
		食品科学演習Ⅱ	4・③～④	2				○		3	4						
		生物化学Ⅱ	2④		2		○			1							
		応用微生物学	2・3④		2		○				1						
		食品・農業情報工学	3①		2		○				1						
		生物有機化学	3・4①		2		○				1						
		酵素化学	3・4①		2		○			1							
		栄養生化学	3・4②		2		○				1						
		畜産食品製造学	3・4②		2		○			1							
		調理科学	3・4②		2		○								兼1		
		食品科学概論	3③		1		○			3	4					オムニバス	
		免疫学概論	3・4③		2		○				1						
		生物統計学	3・4③		2		○				2					オムニバス	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育に関する授業科目	公衆衛生学Ⅰ	3・4③		2		○									兼1	オムニバス
	醸造学	3・4③		2		○									兼2	
	食コミュニケーション演習	3・4③		1			○		1							
	公衆衛生学Ⅱ	3・4④		2		○									兼1	
	水産食品学	3・4④		2		○									兼1	
	食品科学セミナー	3・4④		1		○									兼1	
	食品科学プログラム実地見学	3・4④		1					3	4						
	調理実習	3・4④		2				○							兼1	
小計(21科目)	—	4	34	0	—	—	—	5	7	0	0	0	0	兼7	—	
就業力育成科目	キャリアビジョン研修	1②		8				○	1							兼1
	地域交流サテライト実習	1②		1				○	8	9		2				
	基礎農力	2②		1		○			1							
	学科インターンシップ	3②		2				○		8						
	応用農力	4②		1		○			1							
小計(5科目)	—	0	13	0	—	—	—	8	16	0	2	0	0	兼1	—	
グローバル科目	科学英語演習	3③	2					○	3	4						兼1 兼1
	技術コミュニケーション入門	3④		2				○		1						
	海外語学研修	3・4②		4				○	2	3						
	グローバル農力	3・4②		3				○	4	3						
	グローバル防災・復興学	3・4②		3				○	4	3						
小計(5科目)	—	2	12	0	—	—	—	7	11	0	0	0	0	兼1	—	
卒業論文	卒業論文Ⅰ	4①～②	3					○	3	4						—
	卒業論文Ⅱ	4③～④	3					○	3	4						
	小計(2科目)	—	6	0	0	—	—	—	3	4	0	0	0	0		
教職・基礎科目	職業指導(農)	2・3②			2	○									兼1	集中 オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス
	基礎物理学	1①			1	○				4						
	基礎化学	1①			1	○			2	6						
	基礎生物学	1①			1	○			2							
	基礎地学	1①			1	○			1	3						
	小計(5科目)	—	0	0	6	—	—	—	5	13	0	0	0	0	兼1	
合計(66科目)			—	55	71	6	—	—	20	24	0	11	0	0	兼13	—
学位又は称号		学士(農学)		学位又は学科の分野			農学関係									
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
(卒業要件) 教養教育科目35単位以上、専門教育科目85単位以上、合計124単位以上を修得すること。 (履修方法) 1. 教養教育に関する科目として、大学学習法(2単位)、英語(4単位以上)、初修外国語(4単位以上)、健康・スポーツ(1単位以上)、情報リテラシー(2単位以上)、新潟大学個性化科目/人文社会・教育科学(10単位以上)、自然系共通専門基礎/自然科学/医歯学(10単位以上)を履修する。 2. 専門教育に関する科目として、農学部共通基礎科目の必修科目である入門科目(5単位)を修得し、主題科目6単位以上、専門基礎科目から講義科目28単位、専門科目から講義科目18単位以上、専門基礎科目及び専門科目から演習、実験・実習科目15単位以上、就業力育成科目1単位以上、グローバル科目2単位以上、卒業論文6単位を履修する(必修科目55単位、選択必修科目25単位、選択科目5単位以上)。 (履修科目の登録の上限:48単位(年間))								1学年の学期区分				4ターム				
								1学期の授業期間				8週				
								1時限の授業時間				90分				

教育課程等の概要 (事前伺い)																
(農学部農学科 生物資源科学プログラム)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専修教育に 関係する 授業科目	別紙のとおり (4頁～7頁)															
専門教育に 関する 授業科目	農学部共通基礎科目															
	入門科目	農学入門Ⅰ	1①	2			○			6	8			兼1	オムニバス	
		農学入門Ⅱ	1①	2			○			5	7		3		オムニバス	
		基礎農林学実習	2②	1				○		2	2		2		兼1	オムニバス
		小計(3科目)	—	5	0	0	—			13	16	0	5	0	兼2	—
	主題科目															
		新潟の農林業	1③		2		○			3	5		2			オムニバス
		食と健康の科学	1④		2		○			3	4				兼2	オムニバス
		土と水	1④		2		○			4	8		2			オムニバス
		農業資源を知る	2①		2		○			5	3		4			オムニバス
		生命を知る	2①		2		○			4	8		1		兼1	オムニバス
		生態系を知る	2②		2		○			2	3		1			オムニバス
		小計(6科目)	—	0	12	0	—			19	24	0	10	0	兼3	—
	専門基礎科目															
	植物生産学概論	2③	2			○				1						
	動物生産学概論	2③	2			○			2	2		2			オムニバス	
	食料資源経済学	2③	2			○						1				
	基礎動物生産学実験	2④	1				○		2	4		2			オムニバス	
	基礎農業経済学演習	2④	1				○		2	1		2			オムニバス	
	環境保全型農業論	2③		2		○				1						
	食品産業論	2③		2		○			1							
	植物遺伝学	2③		2		○						1				
	栽培環境学	2③		2		○			1							
	植物病理学	2④		2		○				1						
	動物栄養学	2④		2		○				1						
	作物学概論	2④		2		○			1	1					オムニバス	
	動物遺伝学	2④		2		○			1							
	動物解剖生理学	2④		2		○				1						
	小計(14科目)	—	8	18	0	—			5	7	0	4	0		—	
専門科目																
	生物資源科学演習Ⅰ	4①～②	2				○		7	6		5		兼1		
	生物資源科学演習Ⅱ	4③～④	2				○		7	6		5		兼1		
	乳牛生産管理学	2③		2		○						1				
	食料環境工学	2③		2		○			1			1			オムニバス	
	土壌学概論	2③		2		○				1						
	野生動物生態学	2③		2		○			1							
	国際フードシステム論	2④		2		○			1							
	農産物流通論	2④		2		○						1				
	農業統計学	2④		1		○			1	1		1			オムニバス	
	植物栄養生理学	2④		2		○			1							
	農村空間デザイン学	2④		2		○				1						
	精密農業工学	2④		2		○				1						
	食品・農業情報工学	3①		2		○				1						
	畜産食品学	3①		2		○			1							
	農業経営学	3・4①		2		○				1						
	農業農村開発論	3・4①		2		○			1							
	動物生産生理学	3・4①		2		○			1							
	蔬菜園芸学	3・4①		2		○			1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育に関する授業科目	動物衛生福祉学	3・4①		2		○			2	2			2			オムニバス
	肥科学	3・4①		2		○			1						兼1	オムニバス
	植物ウイルス学	3・4①		2		○				1						
	作物学Ⅰ	3・4①		2		○				1						
	遺伝子工学	3②		2		○				1						
	バイオマスエネルギー論	3②		2		○				1			1			オムニバス
	応用昆虫学	3②		2		○									兼1	
	作物学Ⅱ	3・4②		2		○			1							
	植物細胞工学	3・4②		2		○									兼1	
	動物発生生殖学	3・4②		2		○							1			
	アグリビジネス論	3・4②		2		○			1							
	果樹園芸学	3・4②		2		○			1							
	草地生態学	3・4②		2		○				1						
	農業会計学	3・4②		2		○									兼1	
	植物育種学Ⅰ	3・4③		2		○			1							
	動物遺伝増殖学	3・4③		2		○			1				1			オムニバス
	農業協同組合論	3・4③		2		○							1			
	花卉園芸学	3・4③		2		○									兼1	
	植物育種学Ⅱ	3・4④		2		○			1							
	植物生産実地見学	3②		1				○	2	1						オムニバス
	牧場実習	3②		1				○	2	2			2			オムニバス
	植物生産学実験実習Ⅰ	3①		2				○	3	2						オムニバス
	植物生産学実験実習Ⅱ	3②		2				○	1	2			1			オムニバス
	植物生産学実験実習Ⅲ	3③		2				○	3	2						オムニバス
	植物生産学実験実習Ⅳ	3④		2				○	1	2			1			オムニバス
	動物生産学実験実習Ⅰ	3①		2				○		1			1			オムニバス
	動物生産学実験実習Ⅱ	3②		2				○	1				1			オムニバス
	動物生産学実験実習Ⅲ	3③		2				○	1	1			1			オムニバス
	動物生産学実験実習Ⅳ	3④		2				○	1	1			1			オムニバス
	農業経済学演習Ⅰ	3①		2				○					2			
	農業経済学演習Ⅱ	3②		2				○	2	1			2			オムニバス
農業経済学演習Ⅲ	3③		2				○	2	1			2				
農業経済学演習Ⅳ	3④		2				○	2	1			2				
	小計(51科目)	—	4	95	0				11	10	0	5	0	兼4	—	
就業力育成科目	キャリアビジョン研修	1②		8				○	1							
	地域交流サテライト実習	1②		1				○	8	9		2		兼1		
	基礎農力	2②		1		○			1							
	学科インターンシップ	3②		2				○		8						
	応用農力	4②		1		○			1							
	小計(5科目)	—	0	13	0				8	16	0	2	0	兼1	—	
グローバル科目	科学英語演習	3③	2					○	7	6		5		兼1		
	技術コミュニケーション入門	3④		2				○		1						
	海外語学研修	3・4②		4				○	2	3						
	グローバル農力	3・4②		3				○	4	3				兼1		
	グローバル防災・復興学	3・4②		3				○	4	3				兼1		
	小計(5科目)	—	2	12	0				8	12	0	5	0	兼2	—	
卒業論文	卒業論文Ⅰ	4①～②	3					○	7	6		5		兼1		
	卒業論文Ⅱ	4③～④	3					○	7	6		5		兼1		
	小計(2科目)	—	6	0	0				7	6	0	5	0	兼1	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教職・基礎科目	職業指導(農)	2・3②			2	○									兼1	集中
	基礎物理学	1①			1	○			4							オムニバス
	基礎化学	1①			1	○		2	6							オムニバス
	基礎生物学	1①			1	○		2								オムニバス
	基礎地学	1①			1	○		1	3							オムニバス
	小計(5科目)	—	0	0	6	—	—	5	13	0	0	0	0	0	兼1	
合計(91科目)		—	25	150	6	—	—	20	24	0	11	0	0	兼9	—	
学位又は称号		学士(農学)			学位又は学科の分野			農学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
(卒業要件) 教養教育科目35単位以上、専門教育科目85単位以上、合計124単位以上を修得すること。 (履修方法) 1. 教養教育に関する科目として、大学学習法(2単位)、英語(4単位以上)、初修外国語(4単位以上)、健康・スポーツ(1単位以上)、情報リテラシー(2単位以上)、新潟大学個性化科目/人文社会・教育科学(10単位以上)、自然系共通専門基礎/自然科学/医歯学(10単位以上)を履修する。 2. 専門教育に関する科目として、農学部共通基礎科目の必修科目である入門科目(5単位)を修得し、主題科目6単位以上、専門基礎科目から講義科目16単位以上、専門科目から講義科目24単位以上、専門基礎科目及び専門科目から演習、実験・実習科目14単位以上、就業力育成科目1単位以上、グローバル科目2単位以上、卒業論文6単位を履修する(必修科目25単位、選択必修科目49単位、選択科目11単位以上)。 (履修科目の登録の上限:48単位(年間))							1学年の学期区分		4ターム							
							1学期の授業期間		8週							
							1時限の授業時間		90分							

教育課程等の概要(事前伺い)

(農学部農学科 流域環境学プログラム)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専修教育に 関係する 科目	別紙のとおり (4頁～7頁)															
専門教育に 関する 授業科目	農学部共通基礎科目															
	入門科目	農学入門Ⅰ	1①	2			○			6	8				兼1	オムニバス
		農学入門Ⅱ	1①	2			○			5	7		3		兼1	オムニバス
		基礎農林学実習	2②	1				○		2	2		2		兼1	オムニバス
		小計(3科目)	—	5	0	0	—			13	16	0	5	0	兼2	—
	主題科目	新潟の農林業	1③		2		○			3	5		2		兼2	オムニバス
		食と健康の科学	1④		2		○			3	4				兼2	オムニバス
		土と水	1④		2		○			4	8		2		兼2	オムニバス
		農業資源を知る	2①		2		○			5	3		4		兼1	オムニバス
		生命を知る	2①		2		○			4	8		1		兼1	オムニバス
		生態系を知る	2②		2		○			2	3		1		兼1	オムニバス
		小計(6科目)	—	0	12	0	—			19	24	0	10	0	兼3	—
	専門基礎科目															
		測量学(農)	2④		2		○						1			オムニバス
		測量学実習(農)	3①～②		2				○		2		2			オムニバス
	環境モデリング入門	2③		2		○			2			1			オムニバス	
	フォレスター入門	2③		2		○			2						オムニバス	
	農環境デザイン入門	2③		2		○			4						オムニバス	
	農地と水利用	2③		2		○			2						オムニバス	
	環境砂防学	2③		2		○				1					オムニバス	
	樹木学	2③		2		○			1						オムニバス	
	野生動物生態学	2③		2		○			1						オムニバス	
	防災系演習及び実習	2③～④		3				○		1					※演習	
	野生植物生態学	2④		2		○				2					オムニバス	
	流域環境GIS	2④		2		○				2		1			オムニバス	
	野生動植物生態学実習	3①～②		4				○	2	2		1			オムニバス	
	農村空間デザイン演習	3②		2				○		1					オムニバス	
	フィールドワーカーのためのリスクマネジメント実習	3③		2				○		1				兼1	オムニバス	
	小計(15科目)	—	4	29	0	—			2	10	0	4	0	兼1	—	
専門科目																
	技術者倫理・自然環境関連法規	3④		2		○			1	2					オムニバス	
	流域環境学演習Ⅰ	4①～②		2				○	4	10		4		兼1	オムニバス	
	流域環境学演習Ⅱ	4③～④		2				○	4	10		4		兼1	オムニバス	
	食料環境工学	2③		2		○			1			1			オムニバス	
	水環境工学	2③		2		○				1					オムニバス	
	フィールド安全論	2③		2		○				1				兼2	オムニバス	
	環境地水学	2④		2		○						1			オムニバス	
	森林環境論	2④		2		○			1						オムニバス	
	構造デザイン工学	2④		2		○				1					オムニバス	
	農村空間デザイン学	2④		2		○				1					オムニバス	
	土環境工学	2④		2		○						2			オムニバス	
	精密農業工学	2④		2		○				1					オムニバス	
	環境材料工学	3①		2		○				1					オムニバス	
	森林保全学	3①		2		○			1						オムニバス	
	流域水文学	3①		2		○				1					オムニバス	
	食品・農業情報工学	3①		2		○				1					オムニバス	
	水土環境工学実験	3①		2				○		2		2			オムニバス	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育に関する授業科目	生物生産工学実験	3①		2				○	1			1			オムニバス
	持続可能な森林経営演習	3①～②		2			○		1	1					オムニバス
	生態系管理演習及び実習	3①～③		4				○	1	1					オムニバス※演習
	育林系演習及び実習	3②		4				○	3	1					オムニバス※演習
	バイオマスエネルギー論	3②		2			○		1		1				オムニバス
	森林遺伝育種学	3②		2			○			1					
	リモートセンシング	3②		2			○			1					
	雪氷防災学	3②		2			○		1						兼1
	草地生態学	3・4②		2			○			1					
	植物バイオマス利用科学	3・4②		2			○			1					
	造園学	3・4②		2			○								兼1
	温暖化メカニズム・影響学	3③		2			○		1						兼1 オムニバス
	斜面災害論	3③		2			○								兼1
	森林再生学	3③		2			○		2	1					
	水土環境工学演習	3③		2				○		2		2			オムニバス
	生物生産工学演習	3③		2				○		1		1			オムニバス
	環境統計学	3④		2			○		2	0					オムニバス
GIS・リモートセンシング演習	3④		2				○		1						
エンジニアリング・デザイン演習	3④		2				○	4	10		4			複数	
小計(36科目)	—	6	70	0	—	—	—	5	12	0	4	0	兼5	—	
就業力育成科目	キャリアビジョン研修	1②		8				○	1						
	地域交流サテライト実習	1②		1				○	8	9		2		兼1	
	基礎農力	2②		1			○		1						
	学科インターンシップ	3②		2				○		8					
	応用農力	4②		1			○		1						
小計(5科目)	—	0	13	0	—	—	—	8	16	0	2	0	兼1	—	
グローバル科目	科学英語演習	3③	2				○		4	10		4		兼1	
	技術コミュニケーション入門	3④		2			○			1					
	海外語学研修	3・4②		4			○		2	3					
	グローバル農力	3・4②		3			○		4	3				兼1	
	グローバル防災・復興学	3・4②		3			○		4	3				兼1	
小計(5科目)	—	2	12	0	—	—	—	8	14	0	4	0	兼1	—	
卒業論文	卒業論文Ⅰ	4①～②	3				○		4	10		4		兼1	
	卒業論文Ⅱ	4③～④	3				○		4	10		4		兼1	
	小計(2科目)	—	6	0	0	—	—	—	4	10	0	4	0	兼1	—
教職・基礎科目	職業指導(農)	2・3②			2	○								兼1	集中
	基礎物理学	1①		1		○				4					オムニバス
	基礎化学	1①		1		○			2	6					オムニバス
	基礎生物学	1①		1		○			2						オムニバス
	基礎地学	1①		1		○			1	3					オムニバス
小計(5科目)	—	0	0	6	—	—	—	5	13	0	0	0	兼1	—	
合計(77科目)		—	23	136	6	—	—	—	20	24	0	11	0	兼11	—

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号		学士(農学)		学位又は学科の分野			農学関係							
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
(卒業要件) 教養教育科目35単位以上、専門教育科目85単位以上、合計124単位以上を修得すること。 (履修方法) 1. 教養教育に関する科目として、大学学習法(2単位)、英語(4単位以上)、初修外国語(4単位以上)、健康・スポーツ(1単位以上)、情報リテラシー(2単位以上)、新潟大学個性化科目/人文社会・教育科学(10単位以上)、自然系共通専門基礎/自然科学/医歯学(10単位以上)を履修する。 2. 専門教育に関する科目として、農学部共通基礎科目の必修科目である入門科目(5単位)を修得し、主題科目6単位以上、専門基礎科目から講義科目16単位以上、専門科目から講義科目18単位以上、専門基礎科目及び専門科目から演習、実験・実習科目16単位以上、就業力育成科目1単位以上、グローバル科目2単位以上、卒業論文6単位を履修する(必修科目23単位、選択必修科目47単位、選択科目15単位以上)。 (履修科目の登録の上限:48単位(年間))						1学年の学期区分			4ターム					
						1学期の授業期間			8週					
						1時限の授業時間			90分					

教育課程等の概要(事前伺い)

(農学部農学科 フィールド科学人材育成プログラム)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専任教員 授業教育 科目に関	別紙のとおり (4頁～7頁)															
専門教育に関する授業科目	農学部共通基礎科目 入門科目 農学入門Ⅰ	1①	2			○			6	8				兼1	オムニバス	
	農学入門Ⅱ	1①	2			○			5	7		3			オムニバス	
	基礎農林学実習	2②	1					○	2	2		2		兼1	オムニバス	
	小計(3科目)	—	5	0	0	—			13	16	0	5	0	兼2	—	
	主題科目 新潟の農林業	1③		2			○		3	5		2			オムニバス	
	食と健康の科学	1④		2			○		3	4				兼2	オムニバス	
	土と水	1④		2			○		4	8		2			オムニバス	
	農業資源を知る	2①		2			○		5	3		4			オムニバス	
	生命を知る	2①		2			○		4	8		1		兼1	オムニバス	
	生態系を知る	2②		2			○		2	3		1			オムニバス	
	小計(6科目)	—	0	12	0	—			19	24	0	10	0	兼3	—	
	専門基礎科目	フィールドワーカーのためのリスクマネジメント実習	3③	2					○		1				兼1	オムニバス
	環境砂防学	2③		2			○			1						
	樹木学	2③		2			○		1							
野生動物生態学	2③		2			○		1								
生態学	2③		2			○							兼1			
系統分類学	2③		2			○							兼4	オムニバス		
環境分析化学	2③		2			○							兼1			
防災系演習及び実習	2③～④		3						1					※演習		
野生植物生態学	2④		2			○			1							
流域環境GIS	2④		2			○			2		1			オムニバス		
地形学	2④		2			○							兼1			
地形解析実習	3①		2										兼1			
測量学実習(農)	3①～②		2						2		2			オムニバス		
野生動植物生態学実習	3①～②		4						2	2	1			オムニバス		
小計(14科目)	—	2	29	0	—				2	6	0	4	0	兼8	—	
専門科目	フィールド安全論	2③	2			○				1				兼2	オムニバス	
技術者倫理・自然環境関連法規	3④	2				○			1	2					オムニバス	
フィールド科学演習Ⅰ	4①～②	2					○		4	10		4		兼19		
フィールド科学演習Ⅱ	4③～④	2					○		4	10		4		兼19		
水環境工学	2③		2			○				1						
環境物理学	2③		2			○								兼1		
測量学(農)	2④		2			○					1			オムニバス		
森林環境論	2④		2			○			1							
構造デザイン工学	2④		2			○				1						
土環境工学	2④		2			○					2					
保全遺伝学	2④		2			○								兼1		
森林保全学	3①		2			○			1							
流域水文学	3①		2			○				1						
里地里山再生学	3①		2			○				1				兼4	オムニバス	
環境政策論	3①		2			○				1		1		兼3	オムニバス	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育に関する授業科目	地球環境化学	3①		2		○									兼2	オムニバス
	古環境学	3①		2		○									兼3	オムニバス
	環境地質学	3①		2		○									兼1	
	生態系管理演習及び実習	3①～③		4				○	1	1						オムニバス, ※演習
	森林遺伝育種学	3②		2		○				1						
	リモートセンシング	3②		2		○				1						
	環境経済システム論 I	3②		2		○									兼2	オムニバス
	河川工学	3②		2		○									兼1	
	海洋フィールド生物学実習	3②		2				○							兼3	オムニバス
	気象解析実習	3②		2				○							兼1	
	地質フィールド実習	3②		1				○							兼1	
	雪氷防災学	3②		2		○									兼1	
	地形フィールド実習	3②～③		1				○							兼1	
	温暖化メカニズム・影響学	3③		2		○			1						兼1	オムニバス
	斜面災害論	3③		2		○									兼1	
	森林再生学	3③		2		○			2	1						
	希少生物保全学	3③		2		○						1			兼3	オムニバス
	海洋化学	3③		2		○									兼1	
	寒冷地形学	3③		2		○									兼1	
	水文地質学	3③		2		○									兼1	
	自然再生学実習	3③		2				○							兼4	
	災害・復興科学演習及び実習	3③		2				○		1					兼1	オムニバス, ※演習
	GIS・リモートセンシング演習	3④		2				○		1						
	環境統計学	3④		2		○				4						オムニバス
	水圏生態学	3④		2		○									兼3	オムニバス
	地質災害論	3④		2		○									兼1	
小計(41科目)		—	8	74	0			—	4	10	0	4	0	兼25	—	
就業力育成科目	キャリアビジョン研修	1②		8				○	1							
	地域交流サテライト実習	1②		1				○	8	9		2		兼1		
	基礎農力	2②		1		○			1							
	フィールド科学インターンシップ	3②		2				○		1						
	応用農力	4②		1		○			1							
小計(5科目)		—	0	13	0			—	8	9	0	2	0	兼1	—	
グローバル科目	科学英語演習	3③	2					○	4	10		4		兼19		
	技術コミュニケーション入門	3④		2				○		1						
	海外語学研修	3・4②		4				○	2	3						
	グローバル農力	3・4②		3				○	4	3				兼1		
	グローバル防災・復興学	3・4②		3				○	4	3				兼1		
小計(5科目)		—	2	12	0			—	8	11	0	4	0	兼19	—	
卒業論文	卒業論文Ⅰ	4①～②	3					○	4	10		4		兼19		
	卒業論文Ⅱ	4③～④	3					○	4	10		4		兼19		
	小計(2科目)		—	6	0	0		—	4	10	0	4	0	兼19	—	
教職・基礎科目	職業指導(農)	2・3②			2	○								兼1	集中	
	基礎物理学	1①			1	○				4					オムニバス	
	基礎化学	1①			1	○			2	6					オムニバス	
	基礎生物学	1①			1	○			2						オムニバス	
	基礎地学	1①			1	○			1	3					オムニバス	
	小計(5科目)		—	0	0	6		—	5	13	0	0	0	兼1		
合計(81科目)		—	23	140	6		—	20	24	0	11	0	兼28	—		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
学位又は称号		学士(農学)		学位又は学科の分野			農学関係							
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
(卒業要件) 教養教育科目35単位以上、専門教育科目85単位以上、合計124単位以上を修得すること。 (履修方法) 1. 教養教育に関する科目として、大学学習法(2単位)、英語(4単位以上)、初修外国語(4単位以上)、健康・スポーツ(1単位以上)、情報リテラシー(2単位以上)、新潟大学個性化科目/人文社会・教育科学(10単位以上)、自然系共通専門基礎/自然科学/医歯学(10単位以上)を履修する。 2. 専門教育に関する科目として、農学部共通基礎科目の必修科目である入門科目(5単位)を修得し、主題科目6単位以上、専門基礎科目から講義科目10単位以上、専門科目から講義科目32単位以上、専門基礎科目及び専門科目から演習、実験・実習科目17単位以上、就業力育成科目1単位以上、グローバル科目2単位以上、卒業論文6単位を履修する(必修科目23単位、選択必修科目56単位、選択科目6単位以上)。 (履修科目の登録の上限:48単位(年間))						1学年の学期区分			4ターム					
						1学期の授業期間			8週					
						1時限の授業時間			90分					

設置の趣旨・必要性

I 設置の趣旨・必要性 (図1)

1. 理念

本学部は、食料生産と環境保全に関する幅広い基礎学力と総合的応用力を備え、我が国のみならず世界で活躍できる、創造性豊かで広い視野を持った人材を育てることを教育目標としている。また、21世紀における「持続的な農業の発展と環境の保全」を目指し、総合的な教育研究を弾力的に推進・発展させるため、以下のような目標を基本理念として掲げている。

- ① 生物生産に関連する産業の発展、自然環境との共生に向けて、最新のバイオテクノロジーや情報科学等の科学技術を導入しつつ、多様化する社会の要請に柔軟に対応し得る教育・研究体制を確立する。
- ② 地域農業の生産性の向上や農林業を基幹とした農山村の振興等に貢献する教育研究を行う。
- ③ 国際的な視野を持ち、基礎科学と応用技術を活用できる人材を養成する。
- ④ 学際的な研究を活性化し、地域貢献型プロジェクト研究を推進する。

今日の農学は単なる食料生産だけでなく、「食料」、「生命」、「環境」に関する様々な問題に取り組み、それらを支えるまさに総合科学である。本学部においても、農林水畜産物の生産・加工・流通、生命現象の解明や、生物の様々な機能の開発と応用、食品の機能性や新たな加工技術、地域の生態系や地球環境の理解と保全などに関する幅広い、そして先端的な教育研究が行われている。本学部が立地する新潟は、山から平野、そして海に至る多様で豊かな自然環境に恵まれ、美味しいお米や様々な農産物を産出する日本有数の食料生産地帯であり、さらに1,000社以上の食品関連企業を擁する我が国で代表的な「食づくり」地域である。本学部では、このような恵まれた環境にあることを活用して、上記のような理念と目標に基づき教育研究によって、これまで地域、国内及び国際社会に貢献する有為な人材を多数輩出してきた。

2. 社会の要請

一方、首都圏を除く地方の人口は減少傾向が続いており、農業や食品製造業をはじめとする農学関連産業においても、後継者の不足や、就業人口の著しい減少が顕在化している。また、新潟県の農学系産業の中で、一般的な農林業の重要性は言うまでもないが、それに加えて近年食品産業の重要性が著しく増してきている。しかし農学系産業の発展は、人口減少が続く日本国内だけを対象としていただけでは望めない状況にあり、食品産業のグローバルな展開や、農畜産物の海外輸出の増大が強く望まれている。また、生産コストの上昇や輸入農産物の増加が予測される中で、農業の6次産業化の必要性がさらに高まっている。

このような状況において、本学部が地域や社会に貢献できる農学系人材の育成や、農業や食品産業をはじめとする農学系産業の振興、地域創生・地域活性化、地域環境の維持改善に果たすべき役割は極めて大きく、また地域や社会からの期待も大きい。我が国で代表的な「食づくり」地域にある国立大学の農学部として、このような状況（地域の人口減、産業構造の変化、地域活性化の必要性、農学系産業のグローバル化、農業の6次産業化の必要性など）に対応することは急務である。

そのためには、特に新潟県の代表的な産業であり、今後の成長が期待される食品分野の教育研究と人材育成を強化し、さらに、食品分野以外の農学分野の教育研究の柱である「食料」、「生命」、「環境」の教育研究をより効率的に強力に推進できる体制を整える必要がある。そして、社会の要請、時代の変化に柔軟に対応できる教育研究システムを構築し、学科の壁に阻まれることなく幅広い知識と能力を獲得する学修を可能にし、グローバル展開を担う農学系人材の育成が必要である。「食料生産と環境保全に関する幅広い基礎学力と総合的応用力を備え、我が国のみならず世界で活躍できる、創造性豊かで広い視野を持った人材を育てる」という教育目標を基本に、現在の地域と社会が求めるこれらの課題に対応できる柔軟な教育システムと教育組織を目指して、3学科6（専修コース）主専攻プログラムから、1学科5主専攻プログラム（理学部との分野横断型1つを含む）とする学部改組を行うこととした。

3. 目的

今回の改組の目的は、これまで本学部が担ってきた、「食料生産と環境保全に関する幅広い基礎学力と総合的応用力を備え、我が国のみならず世界で活躍できる、創造性豊かで広い視野を持った人材の育成」を強化しつつ、我が国で代表的な「食づくり」地域にある農学部として、地方国立大学への地域や社会の要請により柔軟に応え得る教育研究体制を確立することにある。

まず、刻々と変わる社会の要請、時代の変化に柔軟に対応できる教育研究体制とすることを目的に、現行の3学科からなる学部の体制を1学部1学科とする。そして、新潟の代表的な産業であり、今後もさらなる成長が期待される米菓や酒造など、食品分野に関する教育研究に特化した主専攻プログラムを独立して設置する。これに加えて、食品以外の農学分野の教育研究の柱である「食料」、「生命」、「環境」の教育研究に特化・集約した主専攻プログラムを整備し、結果として1学部1学科5主専攻プログラム（理学部との分野横断型1つを含む）の教育体制に改組する。

これにより、各主専攻プログラムの変更や改善がより容易になるとともに、互いに独立した学科であることが障壁となっていた農学系他分野の講義科目の履修がより容易になる。また、特定の専門分野に閉ざされることなく、多様な知識を獲得する分野横断型の学修設計がこれまで以上に容易になり、学生が入学後に農学の多様な分野の情報に触れてから自分の将来を選択できるようになる。このような教育システムは、農業の6次産業化に典型的に象徴されるように、農学分野の幅広い知識と技術を備えた農学系人材の育成を可能とする。

また農学系産業の発展は、人口減少が続く日本国内だけを対象としていただけでは困難であり、農産物の海外輸出や食品企業の海外展開が必須である。本学部は海外に多数の交流協定校を有し、これまで活発に国際交流や国際連携研究を推進してきた。また、国費外国人留学生の優先配置プログラムや世界展開力育成事業にも採択されており、これらの実績と資産を活用し、5主専攻プログラムの全てにおいてグローバル教育を実施し、農学系産業のグローバル展開を担う人材の育成に努める。

4. 改組の内容

現在の3学科を1学科（農学科）に統合し、理学部との分野横断型1つを含む5主専攻プログラムを設置する。各主専攻プログラムでは、以下のような人材育成を目的とする教育研究を実施する。

① 応用生命科学プログラム

微生物・植物・動物の細胞及び分子レベルの生命現象の解析、及び農林畜産物の生産・利用など、きわめて広範囲の対象について、問題解決を図る教育と研究を行う。最新のバイオサイエンス・バイオテクノロジー・ゲノム科学等、高度な専門知識や各種の実験技術を習得することができ、食品・環境・農業・医薬品等、日常生活に関連の深い生物・化学関連の研究、技術開発、教育等に携わる人材を育成する。

② 食品科学プログラム

食品や原料の栄養評価、アレルギー・生活習慣病を抑える科学的機能からマーケティングや食行動までを通して豊かな生活に貢献する食のあり方、食産業の発展方向について総合的に教育・研究することを目的とする。そのために、食品成分・栄養素等の化学的基礎から、食品の原材料・加工・機能・衛生・調理、さらには消費者の食行動（購買・調理・摂取）に関する幅広い教育・研究を行う。また、世界トップクラスの米加工及び酒造技術など、新潟の産官の食品分野とも連携した教育により人材を育成する。

③ 生物資源科学プログラム

自然の生態系を重視した農業のあり方と生産力の向上及び農山村地域の発展方向を総合的に教育・研究することを目標とする。そのために、動植物におけるバイオテクノロジー等の先端技術の開発と応用や、国際的な視点も有した農山村資源の総合的な利活用等に関する幅広い教育・研究を行う。

④ 流域環境学プログラム

河川上流の森林地帯から中山間地を経て下流の平野部に至る流域を人の生活と資源循環の一単位として捉え、地域の自然環境と調和した持続的な農林業の生産活動を可能にする教育と研究を行う。そのために、持続的な森林管理と生態系の保全、食料生産の基盤整備と情報ネットワークの活用に関する幅広い専門知識と技術を習得し、人と自然の共生を考えられる人材を育成する。

⑤ フィールド科学人材育成プログラム（理学部との分野横断型）

理学分野における生態学、海洋科学、気象学、地形・地質学等の基礎科学と、農学分野における野生植物・野生動物生態学、森林再生・保全学、砂防学、リモートセンシング等の応用科学、それに災害・復興科学研究所における斜面災害、雪氷防災などの防災学に関する講義に加えて、演習林（山岳）、朱鷺・自然再生学研究センター（里地・里山）、臨海実験所（海）などが有するフィールドを使った実習を体験することにより、野外の様々な場面で必要とされる知識と技術を併せ持ち、それらを統合して多様な分野のフィールド活動に応用できる人材を育成する。

5. 1学科に再編する必要性

(1) 教育システムの改善と社会情勢

現在の本学部は3学科6主専攻プログラム体制になっている。この教育プログラムは学科単位で運営されているため、学生が他学科の主専攻プログラムを選択するには転科が必要となる。したがって、学生の主専攻プログラムの選択には実質的に制約があり、入学する学生の多様化に伴うミスマッチの発生や学修開始後の興味対象の変化への対応が課題となってきた。そこで農学部全体を1学科に再編し、学生の関心やニーズに対応できる体制を構築する。

農学部全体を1学科体制にすることで、各主専攻プログラムの教育体系の継続的な改善がより容易になるとともに、互いに独立した学科であることが障壁となっていた農学系他分野の講義科目の履修がより容易となる。また、特定の専門分野に閉ざされることなく、多様な知識を獲得する分野横断型の学修設計がこれまで以上に容易になり、学生が入学後に農学の多様な分野の情報に触れてから自分の将来を選択できるようになる。このような教育システムは、農業の6次産業化やTPP環境下における農業戦略の転換・強化に象徴されるように、農学分野の幅広い知識と技術を備えた農学系人材の育成を可能とする。また、刻々と変わる社会の要請、時代の変化に柔軟に対応できる教育研究体制となる。

(2) 学部共通教育の充実

学部共通教育の充実により、本学部に入学者の学修や、進路の柔軟性を保証できる体制となる。まず、1年次から2年次前半にかけて農学部共通基礎科目を開設し、農学について幅広く学修する機会を提供する。入学後すぐに「農学入門Ⅰ」と「農学入門Ⅱ」を必修科目として履修させ、本学部で開設している各主専攻プログラムの概要を知ってもらう。1年次の後半から2年次の前半にかけて「新潟の農林業」、「食と健康の科学」、「土と水」、「農業資源を知る」、「生命を知る」、「生態系を知る」の6つの主題科目を選択必修として配置する。この主題科目群は主専攻プログラムの枠に捉われないことなく、食料、生命、環境、食品をキーワードに、農学分野のトピックスについて解説する科目である。また、2年次前半には「基礎農林学実習」を必修として課し、農学部附属フィールド科学教育研究センターを活用した実習を通して、農林業の生産現場での課題探求に臨むことになる。

また、本学部では地域と連携した就業力育成科目を各学年に配置し、就業力を段階的に育成できるようにしている。1年次の前半には、様々な農林業生産現場、工場、研究所等の現場を体験し、地域における農学の必要性和使命を認識させることを目的とした「地域交流サテライト実習」を開講する。2年次前半には、農学に関わる現場で活躍している本学部卒業生を中心とした実務者を招聘し、自分が目指す社会での立ち位置や自律を意識させる「基礎農力」を開講する。さらに、初年次転換教育を発展、充実させるための長期学外学修科目「キャリアビジョン研修」を1年次前半に開講する準備を進めている。

このように、学部共通教育を充実させることにより、学生は農学の幅広い分野を多面的に捉える視点を養うことができ、農学人材としての基盤形成を図りつつ、2年次後半からの主専攻プログラム選択の一助とすることができる。また主専攻プログラム選択後も、横断的に学べる科目の充実を図ることによって、従来のシステムでは難しかった幅広い分野の学習を可能とする。なお、1学科の大括りによって入学した学生の主専攻プログラムへの分属の際は、学生の希望と大きな齟齬をきたさないように十分に配慮する（後述）。

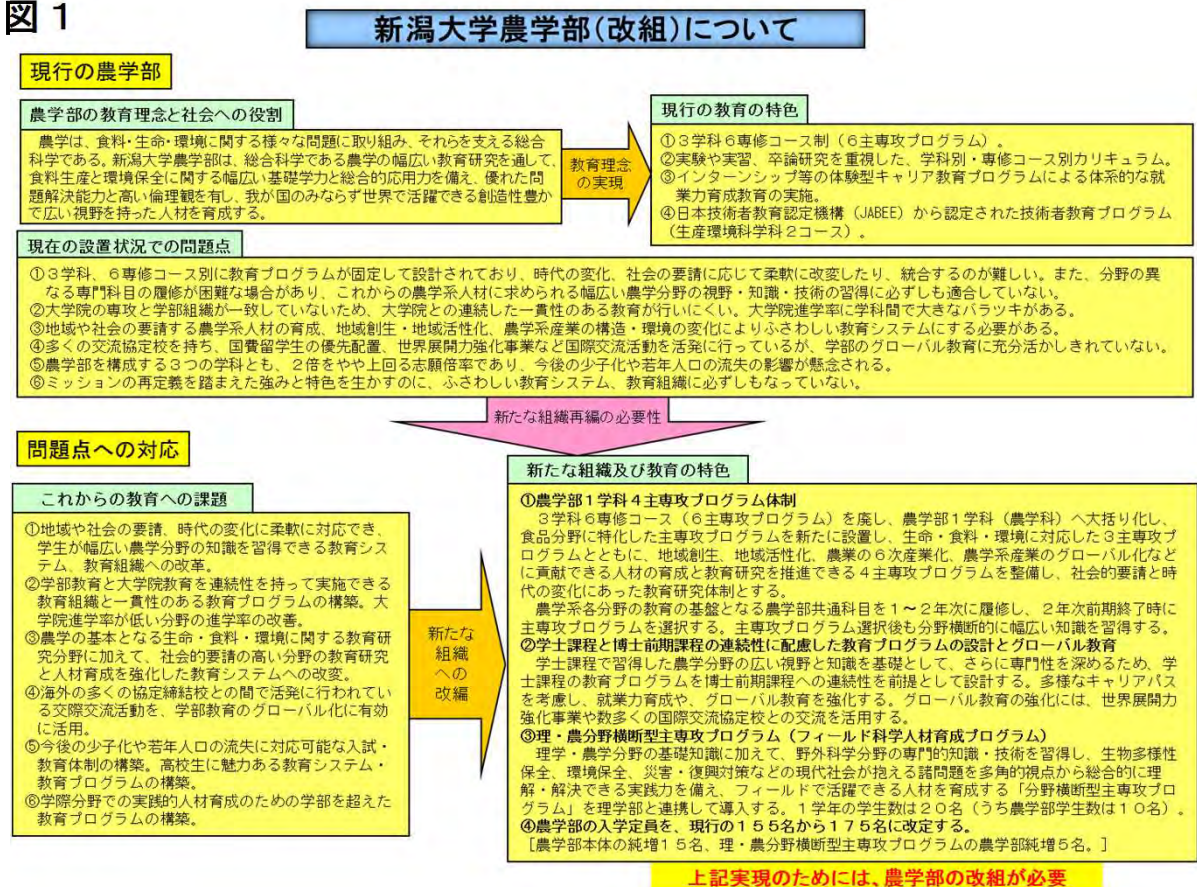
(3) 教員組織の改革

現在の本学部は3学科6主専攻プログラムで構成されており、各教員は学科・主専攻プログラムに所属している意識を持っている。また、ほとんどの教員は自分に関わる特定の主専攻プログラムの学生の教育を専ら担当している。また、教員ポストの運用も各学科・主専攻プログラム内で行われており、ある分野の教員が退職した場合には、同分野の教員を補充しているのが現状である。このような状況では、学生を受け入れられる教育研究分野が限定され、分野横断型の教育研究への対応も困難である。さらに、今後特定の教育研究分野の拡充を図る場合や、新たな教育研究分野を立ち上げる場合には、現行の教員ポストの運用が大きな障壁になる。今回の改組計画によって1学部1学科5主専攻プログラム(分野横断型を含む)となる予定であり、すべての教員が1つの学科に所属する形になる。すなわち、これまで存在していた学部内の学科間での教員組織の壁がなくなり、各教員はそれぞれの主専攻プログラムのニーズに合わせて、講義や実験・実習を担当することになる。教員によっては、複数の主専攻プログラムの教育を担当する場合もある。このような垣根の低い体制の構築により、特定の教育研究分野の拡充や、新たな分野横断型の教育研究の創成が促進され、高度な教育研究の持続とともに、時代のニーズや社会の要請への的確な対応が期待できる。

6. 期待される効果

農林水産省の平成27年度補正予算の多くがTPP関連対策に割り当てられており、主に食品生産現場での生産性向上、高品質化による国際競争力の向上に資する技術の提案が期待されている(農林水産省HP:平成27年度農林水産関係補正予算の概要より)。新潟県はコメの算出額が全国第1位であり、それをういた米菓や清酒などの食料品関連産業が全国的にも盛んである。これら新潟県のブランド力、競争力を高めることが将来の日本の農業の新たな活路になるものと期待される。本学部は地域課題への対応や、社会貢献型研究を促進して大きな成果をあげてきた。たとえば、平成26年度には1件の金額が100万円以上の受託研究・競争的外部資金の獲得が15件あり、その研究費総額は1億円超に上っている。今回の改組により、地域や社会が抱える諸課題により柔軟な組織での対応が可能になる。また、後述するように就業力育成科目が充実されるため、新潟県内の企業や行政機関でのインターンシップの実施、それらの機関からの講師派遣などにより、社会との関わりを实地で体験できる機会が大幅に増加する。また、食品科学プログラムを新たに設置することにより、新潟県内に数多くある著名な食品関連企業との共同研究や技術開発など、産学官連携型の研究を今後さらに推進できるとともに、それらの業界に卒業生を送り込むことで、関連産業の一層の発展が期待される。

図 1



II 教育課程編成の考え方・特色

1. 教育課程の編成方針

教育システムとしては、1年次に主として教養教育・語学教育と農学分野の学部共通基礎科目(入門科目)を履修する。1年次後半から2年次前半にかけて学部共通基礎科目としての主題科目を履修し、2年次前半終了後に主専攻プログラムを選択する。そして、2年次後半に専門基礎科目を履修し、3年次以降は専門科目が中心となる。学士課程で修得した農学分野の広い視野と知識を基礎として、さらに専門性を深めるために、学士課程の教育プログラムを博士前期課程への連続性を前提として設計する。本学部では、多様化する社会の要請に柔軟に対応し得る素養と国際的な視野を身に付けた、農学分野の幅広い知識と技術を備えた農学系人材を育成するため、以下の方針で新しい教育課程を編成する。

- ① 世界・社会・文化・自然についての幅広い知識を身につける教養教育に関する科目、農学に関わる基本的知識を身につける農学部共通基礎科目(入門科目, 主題科目), 特定分野の力を伸ばす専門基礎科目, 専門科目を適切に配置し, 初年次教育から卒業研究に至るまでの教育課程の体系化を図る。
- ② 1年次から2年次前半に農学全般を学ぶ学部共通基礎科目を設定し, 本学部で学ぶ意識を醸成する。
- ③ 課題解決力や就業力の基礎を身に付けるため, 大学学習法, 就業力育成科目(地域交流サテライト実習等)を初年次に配置する。また, それぞれの主専攻プログラムにおいて, 2, 3年次にもアクティブラーニングの手法を取り入れた演習, 実験・実習科目を配置する。
- ④ 各主専攻プログラムへの配属は2年次後半からであるが, それまでに幅広い分野の教育・研究に触れつつ, 社会意識を深め, 社会的要請を的確に認識しながら, 自らの興味・関心と能力・適性等に基づいて主専攻プログラムを選択する。
- ⑤ 各主専攻プログラムが掲げる教育目標に照らし合わせ, 必要に応じて他主専攻プログラムの講義科目も含めて学生が自らの学修をデザインする。
- ⑥ 卒業論文研究については, 自らの所属する主専攻プログラムの総仕上げとなるべくテーマを選択する。本学部全体を1学科に統合したため, 従来の学科の枠にとらわれることなく, 卒論テーマの指導教員を所属プログラム以外からも選ぶことができる。
- ⑦ 高度職業人の育成のため, 学年進行に対応した就業力育成科目を配置する。
- ⑧ グローバル人材育成のため, 英語で開講する科目や英語でのプレゼンテーションスキル獲得, 海外語学研修などのグローバル科目を積極的に導入する。
- ⑨ 農学部と理学部が共同で設置する分野横断型主専攻プログラムでは, 農学部, 理学部に加えて大学の附置研究所も積極的に教育に参加する。
- ⑩ 専門職業人・研究者の育成のため, 大学院への接続をふまえた教育課程を編成する。

2. 教育課程の特色(図2, 図3)

(1) 1学科制への移行と主専攻プログラム選択制の導入

新教育課程では学部1学科制を採用し, 入学直後の高大接続に注力するとともに学部共通の基礎教育を充実させ, 学修や進路の柔軟性を保証する。本学部独自の4主専攻プログラムに加えて, 理学部との分野横断型主専攻プログラム1つを用意し, その選択は2年次前半終了後に行う。これにより, 学生は農学に関する基礎学修を終えた上での主専攻プログラム選択ができるようになる。また主専攻プログラム選択後も, 横断的に学べる科目の充実を図ることによって, 従来のシステムでは難しかった幅広い分野の学修を可能とする。

・主専攻プログラム選択の方法

一般選抜の入試により入学した学生の主専攻プログラムへの分属については, 学生の希望と大きな齟齬をきたさないことに充分配慮し, 以下の方法で実施・決定する。ただし, 最終的に調整がつかなかった場合はGPAを使用することを入学時のガイダンスで学生に周知しておく。

- ① 1年次に開講する学部共通科目等を通じて, 5主専攻プログラムそれぞれにおける教育・研究の内容を周知し, 各主専攻プログラムの魅力を学生に充分理解させる。
- ② 入学当初(4月上旬)において, 各主専攻プログラムの教育内容についてガイダンス(1回目)を実施し, 分属希望に関するアンケート調査(1回目)を行う。アンケート結果より学生が希望する主専攻プログラムの傾向を把握する。
- ③ 10月上旬において, 全体でのガイダンス(2回目)を開催し, 分属までの工程について説明を行う。また, 2月中旬よりオフィスアワー(学生からの質問, 相談を受ける時間)を設け, 学生自らが各主専攻プログラムについての情報収集, 理解を深める機会とし, その後アンケート調査(2回目, 記名制及び分属希望の順位付け)を実施する。
- ④ 2年次の4月上旬において, 各主専攻プログラム単位でガイダンスを開催(3回目)する。また教員との懇談会(グループ単位で各主専攻プログラム担当教員と懇談)を開催し, できるだけ希望する主専攻プログラムに極端な偏りが生じないように, 教育面での指導を心がける。
- ⑤ 各主専攻プログラムの受け入れ可能人数は, そのプログラムを主として担当する教員数を基準として考えるが, 学生の希望にできるだけ添えるように, 受け入れ可能人数に十分な幅を持たせる。
- ⑥ 最終的に, 2年次前半終了時まで希望する主専攻プログラムについての本調査を行い, 極端な隔たりが生じた場合は, ガイダンス等を通じて調整を行う。調整困難な場合でも, 学生のなるべく第2希望までの範囲で主専攻プログラムを選択できるように配慮する。
- ⑦ 最終的に調整がつかない場合はGPAを使用する。
- ⑧ 夏休み期間において, 各主専攻プログラムでオリエンテーションを開催し, 今後の学びについて確認する機会を設ける。

・主専攻プログラムの変更について

主専攻プログラムに分属後の変更は原則として認めないが, 特別な事情がある場合には, 主専攻プログラム変更を認めることがある。

(2) 大学院前期課程との連携による教育課程の編成

新教育課程では, 4年間で卒業を目指す標準課程と, 大学院博士前期課程までを一貫させた教育課程を編成し, 4年進級時にいずれかを選択する。どちらの課程においても学部卒業要件として, 卒業研究及び卒業論文作成ならびに卒業研究発表を課す。また, 大学院までの一貫課程では, 大学院前期課程科目の先取り履修をコースワークに組み込む。現在大学院博士前期課程では, グローバルな視点を持ちつつ, 現代の農と食の問題に広く対応可能な専門職業人を輩出することを目的に, 「食づくり実践型農と食のスペシャリスト養成プログラム」を実施している。このプログラムで展開している「新潟食づくりプロジェクト」及び「スペシャリスト養成科目」の一部についても先取り履修対象とする。

(3) 高大接続から卒業までを見据えたアクティブラーニングの手法を取り入れた授業科目の展開

現在入学直後に開講している「大学学習法」は, 学生の学習態度を受動的なものから能動的で自律的・自立的なものへと転換させることを目的とする, グループワークを主体とした科目である。新教育課程においてはその内容の充実化を図った上で継承し, 初年次転換教育に位置付ける。また2年次の「基礎農林学実習」では, 農学部附属フィールド科学教育研究センターを活用した実習を通して, 農林業生産現場での課題探求に臨む。主専攻プログラムに分属後は, アクティブラーニングの手法を取り入れた演習, 実験・実習科目を通して知識の定着・確認を図り, さらに4年次の卒業研究において, それまでに得た知識を活用した課題研究に挑む。

(4) 学部共通教育の充実化

1年次から2年次前期にかけて学部共通基礎科目を配置し、本学部で注力する「食料」、「生命」、「環境」、「食品」を幅広く学修する機会を提供して、農学人材としての基盤形成を図りつつ、学生の主専攻プログラム選択の一助とする。学部共通基礎科目には入門科目と主題科目を設け、前者は必修科目とする。後者には、「食料」、「生命」、「環境」、「食品」に係るトピックスを多面的に捉えた複数の科目を用意し、学生の興味や関心に応じて履修する選択必修科目とする。

(5) 地域と連携した段階的な就業力育成科目の提供

本学部では現在「農力開発プログラム」として、地域教育力を生かした就業力育成科目を各学年に配置し、就業力を段階的に育成している。具体的には、様々な農林業生産現場、工場、研究所等の現場を体験し、地域における農学の必要性と使命を認識させることを目的とした1年次の「地域交流サテライト実習」、農学に関わる現場で活躍をしている本学部卒業生を中心とした実務者を招聘し、目指す社会での立ち位置や自律を意識させる2年次の「基礎農力」、実際の農林業や関連産業の現場で現地研修を受けて理解を深めるとともに、学生同士の議論を通してチームビルディング、チームワーク及びリーダーシップを学ぶPBL型インターンシップにより地域貢献を具体的に考える3年次の「学科インターンシップ」、及び地域における実践的課題を探索し、問題解決能力の向上を目指す4年次の「応用農力」の4科目である。新教育課程ではこれを継承して4年間で学生に十分な就業力の獲得を促すとともに、初年次転換教育を発展、充実させるために長期学外学修科目「キャリアビジョン研修(仮)」を開講する。

(6) 演習、実験・実習科目の重視

新教育課程の各主専攻プログラムに、それぞれの専門性に深く関連付けられた複数の演習、実験・実習科目を必修科目もしくは選択必修科目として用意する。学生は主専攻プログラム選択後、基礎的演習、実験・実習科目から応用的演習、実験・実習科目を順次履修することによって、社会から期待されるスキルレベルを獲得する。

(7) グローバル教育

本学部では2015年度に「経験・知恵と先端技術の融合による、防災を意識したレジリエントな農学人材養成」が文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」に採択された。この事業には学部学生及び大学院博士前期課程の学生を対象とした短期派遣・受入れが含まれていることから、新教育課程ではこの枠組みを積極的に活用し、学生が海外の学生と交流しつつ、グローバルな視点から「食料」、「生命」、「環境」、「食品」を考える機会を提供する。また、コミュニケーションツールとしての英語力の底上げを目的に、教養科目としての英語科目に加えて、学部においては「海外語学研修」、「科学英語演習」、「技術コミュニケーション入門」、「グローバル農力」、「グローバル防災・復興学」といった多様な授業科目を提供する。

(8) 各主専攻プログラムの特色

① 応用生命科学プログラム

微生物・植物・動物の細胞および分子レベルの生命現象の解析、農林畜産物の生産・利用など、きわめて広範囲の対象について問題解決を図る教育と研究を行う。最新のバイオサイエンス・バイオテクノロジー・ゲノム科学等、高度な専門知識や各種の実験技術を習得することができ、食品・環境・農業・医薬品等、日常生活に関連の深い生物・化学関連の研究、技術開発、教育等に携わる人材を育成する。

本主専攻プログラムは、既設の応用生物化学科の分子生命科学分野および土壌植物資源科学分野の教員とともに、農業生産科学科の植物生産学分野および動物生産学分野の一部の教員が担当する。

本主専攻プログラムに所属した学生は、専門基礎講義科目、専門講義科目に加えて、分析化学実験、微生物学実験、生物化学実験、生物学実験、有機化学実験、応用生命科学実験、応用生命科学演習などの基礎から応用までの実験・演習科目を必修科目として順次履修することにより、社会から期待されるスキルレベルを獲得する。

近年、バイオサイエンス・バイオテクノロジーはさまざまな分野に拡大してきており、それに伴いこれらの専門知識を習得した人材の活躍の場が広がると予想される。そのため、卒業後の主な進路として、食品・環境・農業・医薬品・化学等の企業・公的機関におけるバイオサイエンス・バイオテクノロジー部門が考えられる。なお、関連分野におけるこれまでの実績から、約6割の学生は大学院に進学し、これらの分野の研究・開発職および専門技術職を目指すと考えられる。

② 食品科学プログラム

食品や原料の栄養評価、アレルギー・生活習慣病を抑える科学的機能からマーケティングや食行動までを通して豊かな生活に貢献する食のあり方、食産業の発展方向について総合的に教育・研究することを目的とする。そのために、食品成分・栄養素等の化学的基礎から、食品の原材料・加工・機能・衛生・調理、さらには消費者の食行動(購買・調理・摂取)、ヒトへの生理機能、免疫システム等に関する幅広い教育・研究を行う。また、世界トップクラスの米加工および酒造技術など、新潟の産官の食品分野とも連携した教育により人材を育成する。

本主専攻プログラムは、既設の応用生物化学科の食品・栄養科学分野の教員とともに、農業生産科学科の食料・資源経済学分野および生産環境科学科の農業工学分野の一部の教員が担当する。新規採用教員による同分野の強化も行う予定である。

本主専攻プログラムに所属した学生は、専門基礎講義科目、専門講義科目に加えて、分析化学実験、微生物学実験、生物化学実験、生物学実験、食コミュニケーション演習、食品科学演習、調理実習などの基礎から応用までの実験・演習・実習科目を必修もしくは選択必修科目として順次履修することにより、社会から期待されるスキルレベルを獲得する。

今回の改組で食品分野が独立した主専攻プログラムとなる。これにより、食産業を中心として、健康分野に至るさまざまな場で活躍できる人材を輩出できる。そのため、卒業後の主な進路として、食品・酒造等の食品関連企業、分析研究機関、化学系企業や、食品・農業・化学等の公務員が考えられる。なお、関連分野におけるこれまでの実績から、約6割の学生は大学院に進学し、これらの分野の研究・開発職および専門技術職を目指すと考えられる。

③ 生物資源科学プログラム

自然の生態系を重視した農業のあり方と生産力の向上、農山村地域の発展方向を総合的に教育・研究することを目標とする。そのために、動植物におけるバイオテクノロジー等の先端技術の開発と応用や、国際的な視点も有した農山村資源の総合的な利活用等に関する幅広い教育・研究を行う。

本主専攻プログラムは、既設の農業生産科学科の教員とともに、応用生物化学科の分子生命科学分野および土壌植物資源科学分野の一部の教員、生産環境科学科の農業工学分野の一部の教員、およびフィールド科学教育研究センター・村松・新通ステーションの教員が担当する。

本主専攻プログラムに所属した学生は、専門基礎講義科目、専門講義科目に加えて、基礎動植物生産学実験、植物生産学実験実習、動物生産学実験実習、農業経済学演習、牧場実習、生物資源科学演習などの基礎から応用までの実験・実習・演習科目を必修もしくは選択必修科目として順次履修することにより、社会から期待されるスキルレベルを獲得する。

新たな農業、革新的な農業経営が求められる今日、それに対応した人材教育が求められており、今回の改組によって、さまざまな場で活躍できる人材を輩出できるようになる。そのため、卒業後の主な進路として、農業・食品関係の企業、農業等の公務員・団体、農業経営に関するコンサルタント業務などを手掛ける企業や金融機関・農業法人などが考えられる。なお、関連分野におけるこれまでの実績から、約3割の学生は大学院に進学し、同分野における研究・開発職および専門技術職を目指すと考えられる。

④ 流域環境学プログラム

河川上流の森林地帯から中山間地を経て下流の平野部に至る流域を人の生活と資源循環の一単位として捉え、地域の自然環境と調和した持続的な農林業の生産活動を可能にする教育と研究を行う。そのために、持続的な森林管理と生態系の保全、食料生産の基盤整備と情報ネットワークの活用に関する幅広い専門知識と技術を習得し、人と自然の共生を考えられる人材を育成する。

本主専攻プログラムは、既設の生産環境科学科の教員とともに、農業生産科学科の食料・資源経済学分野、植物生産学分野、動物生産学分野の一部の教員、応用生物化学科の土壤植物資源科学分野の一部の教員、およびフィールド科学教育研究センター佐渡ステーションの教員が担当する。

本主専攻プログラムに所属した学生は、専門基礎講義科目、専門講義科目に加えて、測量学実習、育林系演習及び実習、持続可能な森林経営演習、GIS・リモートセンシング演習、水士環境工学実験、エンジニアリング・デザイン演習、流域環境学演習などの基礎から応用までの実習・演習・実験科目を必修もしくは選択必修科目として順次履修することにより、社会から期待されるスキルレベルを獲得する。

持続的な地域創生を推進する人材およびその育成が求められている中で、今回の改組により、地域および地球規模での自然環境と調和した流域の管理・経営が実行できる技術者と、地域の農業基盤の充実を通じて人間生活を豊かにするための知識を有する技術者を輩出できるようになる。そのため、卒業後の主な進路として、農林業発展の牽引役として森林・農業工学系の公務員（国家・地方）や団体での活躍が期待される。また、環境コンサルタントや総合建設業、造園・緑化、測量関係の企業も重要な就職先と考えられる。現在、多くの産業分野において環境調和型の技術開発とその応用が求められており、将来の活躍の場が広がることが期待される。なお、関連分野におけるこれまでの実績から、約3割の学生は大学院に進学し、これらの分野の研究・開発職および専門技術職を目指すと考えられる。

⑤ フィールド科学人材育成プログラム(分野横断型主専攻プログラム)(図4)

高度に発達した現代社会が継続的に発展していくためには、生態系や環境の保全、災害対策などの諸課題に多角的視点から総合的に取り組むことが急務である。そのためには、これまでの細分化された分野において、専門分野中心の教育によって育成された人材供給のみでは不十分であり、総合的な視野を持った人材の育成が必要である。新潟県は佐渡島、平野部、中山間地、山岳地域など、広大で多様な地勢条件と気象条件を有し、上述した諸課題にアプローチするために、理学部では基礎科学として、生態学、海洋科学、気象学、地形・地質学等の教育・研究を展開している。一方、農学部では森林や農地、里地里山などを対象に、野生植物・野生動物生態学、森林再生・保全学、砂防学、リモートセンシング等の実践的・応用的な教育研究を展開している。この両学部の教育・研究機能を融合することにより、基礎から応用にわたる幅広い知識・リテラシーを身に付けるためのカリキュラムを構成することが可能となる。さらに、災害・復興科学研究所における斜面災害、雪氷防災などの防災学に関する講義に加えて、演習林(山岳)、朱鷺・自然再生学研究センター(里地・里山)、臨海実験所(海)などが有するフィールドを使った実習を体験することにより、野外のさまざまな場面で必要とされる知識と技術を併せ持ち、それらを統合して現代社会が抱える複雑化した諸問題を総合的に理解し、さまざまな現場(フィールド)で課題解決できる実践的な人材育成が可能となる。本フィールド科学人材育成プログラムは、理学部と農学部が共同で教育プログラムを提供するという、これまであまり例を見ない分野横断型教育プログラムである。学部教育という専門性の枠にとらわれることなく、多様な視点から柔軟に現代社会の諸問題に関わることが可能となる。これは社会からのニーズのみならず、若者の将来志向ともうまく合致する次世代型の教育プログラムである。

本主専攻プログラムは、臨海実験所を含めた理学部系教員とともに、農学部では既設の生産環境科学科とフィールド科学教育研究センター佐渡ステーション(演習林)の教員が担当する。また、附置研究所である災害・復興科学研究所、朱鷺・自然再生学研究センターといった総合大学である新潟大学の人的資源を生かした教育プログラムとなっている。

本主専攻プログラムに所属前の学生は、理学部、農学部それぞれの学部における共通科目を履修する。本主専攻プログラムに所属後は、理学部と農学部の学生がともに学ぶことになる。専門基礎講義科目、専門講義科目により、自然環境に関する基礎的な知識と、生態や生物多様性保全、防災・災害復興、自然再生などの応用的な知識を習得し、幅広い多角的な視点から自然を捉える能力を身に付ける。また、フィールド科学リテラシー科目(必修科目)として、「フィールド安全論」と「フィールドワーカーのためのリスクマネジメント実習」により、野外活動において最も重要な安全に関する知識と技術を学ぶ。また、技術者や研究者に必須の心構えを身に付けさせる「技術者倫理・自然環境関連法規」を履修する。さらに、理学部と農学部のさまざまな分野の野外実習を通して、実際にフィールドで活動できる実践力を養う。理学部からは海洋生態、分類系統、海洋化学、地形・気象解析に関する実習・演習が、農学部からは植物・動物生態、森林保全、山地災害などに関する実習が用意されている。また、国立公園や博物館などでのインターンシップを通じた社会体験科目、臨海実験所、演習林、朱鷺・自然再生学研究センター、災害・復興科学研究所を拠点とする自然再生や災害科学の現場に即した野外実習など、フィールドにおける研究テーマの宝庫である佐渡を含む新潟県の多様な自然環境からなる広範囲なフィールドでの実習・体験を通して、幅広い視野と多角的な視点を養い、野外調査をこなすことで実践力を身に付けることができる。なお、講義や実習は、理学部と農学部の教員が別々に担当するだけでなく、両学部、さらには附置研究所の教員とともに、共同で開講する科目も多数含まれている。

本主専攻プログラムでは、理学部と農学部が基礎的知識と実践的知識を補完しあうカリキュラム編成となっている。そのため、農学部の卒業生にとっては地理・気象情報サービスやエネルギー関連、官公庁の化学・環境職を就職先の選択肢とすることが可能になり、同様に理学部の学生は、従来は選択肢になかった林業・土木系の公務員を就職先として視野に入れることが可能になる。このように、単に理・農でお互いの就職先が選択肢に追加されるにとどまらず、従来から需要があった業界においても、より実践的な能力を身に付けた人材として需要が拡大することが期待できる。たとえば、建設コンサルタント業界では、従来はほぼハード面が中心だった土木工事において、近年はグリーンインフラに代表される生態学的な要素(ソフト面)を盛り込む必要性が急速に増大している。しかし、これまでの土木分野の技術者には、生態学がほとんど理解されていない。こういった分野で本主専攻プログラムの卒業生が強みを発揮でき、今後の需要が大いに高まることが期待される。また、基礎的な地形・地質学と実践的な砂防学・防災学の知識を併せ持つ人材は、即戦力として建設コンサルタント業界からの需要が高まることも期待できる。なお、理学部と農学部の関連分野におけるこれまでの実績から、約5割の学生は大学院に進学し、これらの分野の研究・開発職および専門技術職を目指すと考えられる。

図 2

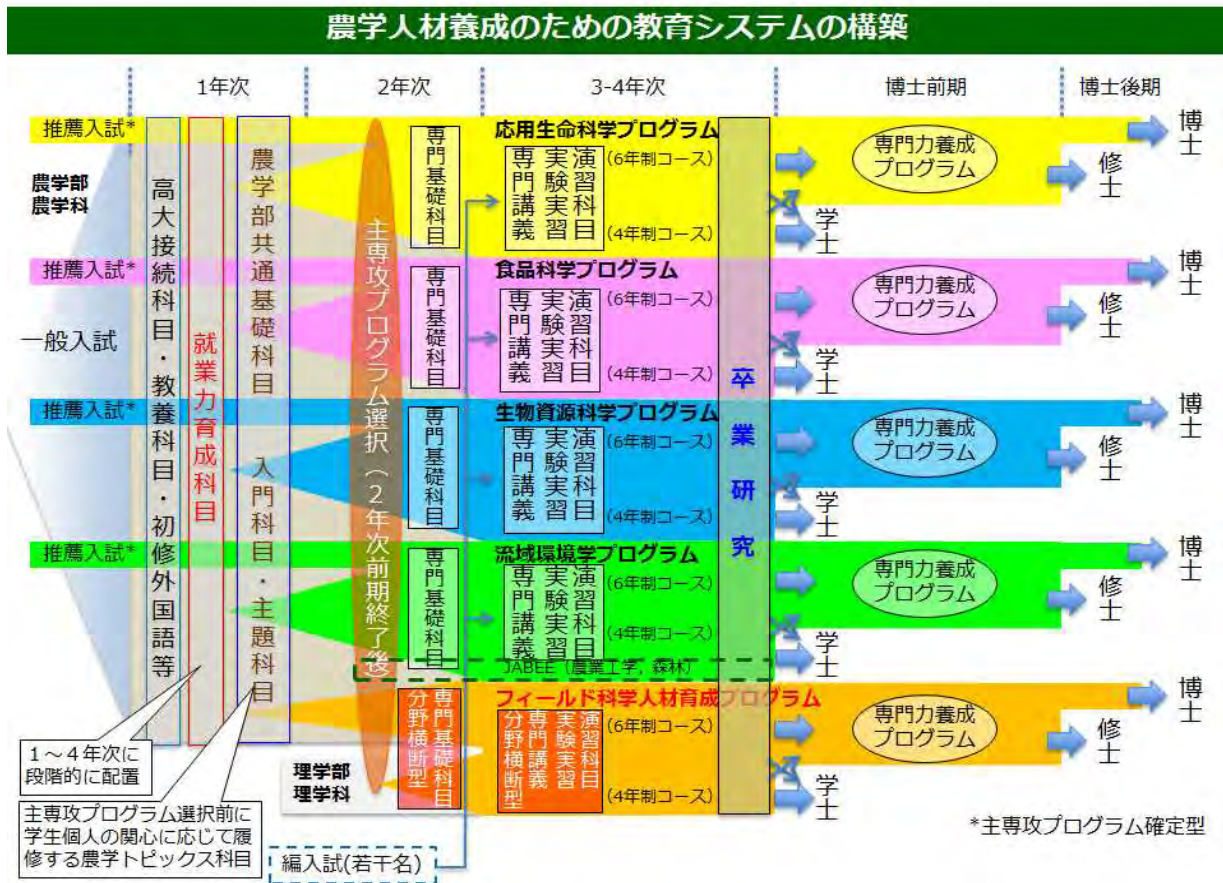


図 3 農学部農学科の3ポリシー模式図

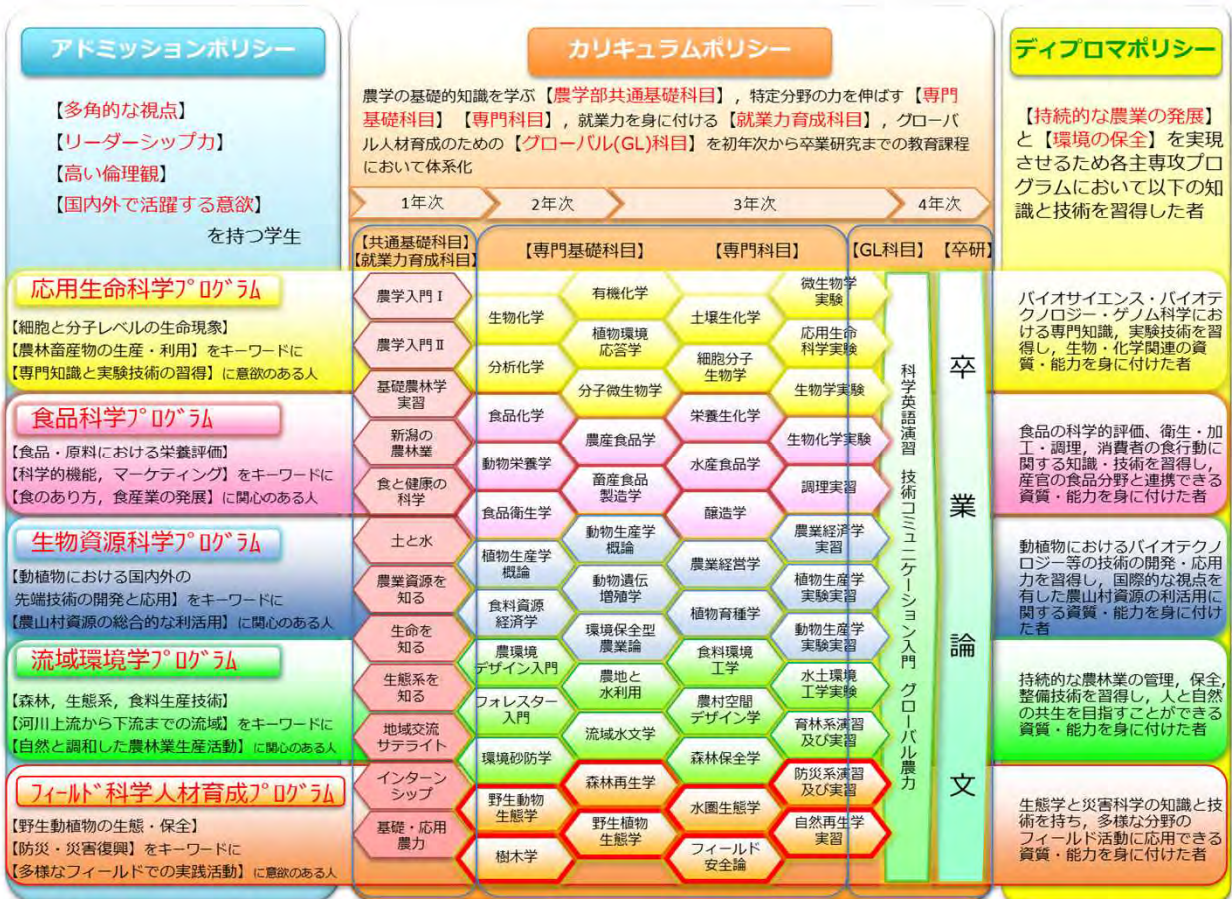


図4 理・農分野横断型「フィールド科学人材育成プログラム」における学修イメージ

理学分野の基礎科学と農学分野の応用科学の両面を併せ持ち、生態学や災害科学等の野外(フィールド)科学分野の専門的知識を修得し、現代社会が抱える諸問題を多角的視点から総合的に理解・解決できる実践力を備えた理系人材を育成する。生物多様性保全、環境保全、災害・復興対策問題に対して、具体的な解決策を提言できる構想力やリーダーシップを持ち、地域・世界を問わず、フィールドで活躍できる理系人材を育成する。

高い専門性を備え、野外活動の実践力を備えた理系人材

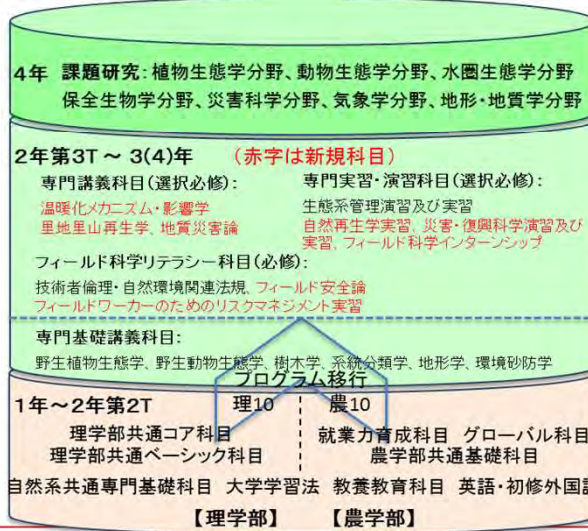
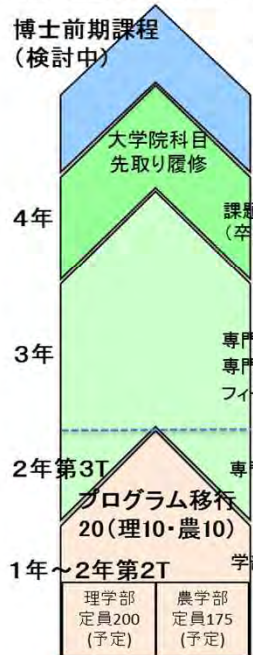
- 環境省 (森林・自然環境)
- 国土交通省
- 気象庁
- 水産庁
- 国土地理院
- 防災科学研究所
- 学芸員 (博物館・植物園)

野外活動の実践力を備えた理系人材

- 環境・建設・水産コンサルタント
- 環境アセスメント
- 自然保護NPO
- 造園・緑化関連企業
- 報道機関(NHKなど)
- エコツアー・山岳ガイド

ディプロマポリシー:

理学分野と農学分野の基礎知識を有するとともに、フィールド科学の諸分野の専門的知識と技術を修得し、それらを統合してフィールド活動に応用できること。



理学部附属臨海実験所
農学部附属フィールド科学教育研究センター(演習林)
災害・復興科学研究所
朱鷺・自然再生学研究センター

アドミッションポリシー:

野生動植物の生態や保全、災害発生のメカニズムや災害復興に関心を持ち、多様なフィールドでの実践活動に意欲のある人。

教育課程等の概要														
農学部(全学科共通)【既設】(教養教育に関する授業科目)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養教育に関する授業科目	アカデミック英語(リーディング)	1前	1			○								兼20
	アカデミック英語(リスニング)	1前	1			○								兼12
	基礎英語	1・2後	1			○								兼13
	アカデミック英語(ライティング)	1・2後	1			○								兼20
	理工英語読解	1・2・3・4前・後		1			○							兼12
	応用英語	1・2・3・4前・後		2			○							兼3
	入門医療英語	1・2・3・4後		1			○							兼2
	発展英語	1・2・3・4前・後		2			○							兼10
	英語表現セミナーA	1・2・3・4前・後		2			○							兼1
	Combination Class: Content & Skills 1	1・2・3・4前		1			○							兼2
	Topic Based Presentation Skills	1・2・3・4後		1			○							兼2
	Combination Class: Content & Skills 2	1・2・3・4後		1			○							兼2
	Intercultural Communication 1	1・2・3・4後		1			○							兼1
	Intercultural Communication 2	1・2・3・4前		1			○							兼1
	Content Lecture	1・2・3・4前		1			○							兼1
Language Lab 2	1・2・3・4前		1			○							兼1	
Topic Based Research Project Class	1・2・3・4前		1			○							兼2	
実践英語	1・2・3・4後		1			○							兼3	
小計(18科目)	—	—	4	17	0	—	—	—	—	—	—	—	兼46	
初修外国語	外国語ベーシック I (1)独語仏語伊語	1・2前		2			○							兼3
	外国語ベーシック I (2)独語西語露語	1・2前		2			○							兼3
	外国語ベーシック I (3)独語仏語中語	1・2前		2			○							兼3
	外国語ベーシック I (4)中語朝語(中)朝語	1・2前		2			○							兼3
	外国語ベーシック I (5)(文字論)	1・2前		2			○							兼1
	ドイツ語インテンシブ I	1・2前		4			○							兼3
	ドイツ語インテンシブ II	1・2後		4			○							兼3
	ドイツ語スタンダード I	1・2前		3			○							兼4
	ドイツ語スタンダード II	1・2後		3			○							兼4
	ドイツ語ベーシック II	1・2後		3			○							兼6
	コミュニケーション・ドイツ語A	1・2前		2			○							兼1
	コミュニケーション・ドイツ語B	1・2前		2			○							兼1
	コミュニケーション・ドイツ語C	1・2前		2			○							兼1
	コミュニケーション・ドイツ語D	1・2前		2			○							兼1
	コミュニケーション・ドイツ語F	1・2後		2			○							兼1
	コミュニケーション・ドイツ語H	1・2後		2			○							兼1
	ドイツ語セミナーA	1・2前		2			○							兼1
	ドイツ語セミナーB	1・2前		2			○							兼1
	ドイツ語セミナーC	1・2後		2			○							兼1
	ドイツ語セミナーD	1・2後		2			○							兼1
	フランス語インテンシブ I	1・2前		4			○							兼1
	フランス語インテンシブ II	1・2後		4			○							兼1
	フランス語スタンダード I	1・2前		3			○							兼3
	フランス語スタンダード II	1・2後		3			○							兼3
	フランス語ベーシック II	1・2後		3			○							兼2
	コミュニケーション・フランス語C	1・2前		2			○							兼1
	コミュニケーション・フランス語H	1・2後		2			○							兼1
	ロシア語インテンシブ I	1・2前		4			○							兼1
	ロシア語インテンシブ II	1・2後		4			○							兼1
	ロシア語スタンダード I	1・2前		3			○							兼1
	ロシア語スタンダード II	1・2後		3			○							兼1
	ロシア語ベーシック II	1・2後		3			○							兼1
	コミュニケーション・ロシア語B	1・2前		2			○							兼1
	コミュニケーション・ロシア語C	1・2後		2			○							兼1
	ロシア語セミナーA	1・2前		2			○							兼1
	中国語インテンシブ I	1・2前		4			○							兼2
	中国語インテンシブ II	1・2後		4			○							兼2
	中国語スタンダード I	1・2前		3			○							兼5
	中国語スタンダード II	1・2後		3			○							兼5
	中国語ベーシック II	1・2後		3			○							兼1
	コミュニケーション・中国語A	1・2前		2			○							兼1
	コミュニケーション・中国語B	1・2前		2			○							兼1
コミュニケーション・中国語D	1・2後		2			○							兼1	
コミュニケーション・中国語F	1・2後		2			○							兼1	
上海語演習	1・2後		2			○							兼1	
朝鮮語インテンシブ I	1・2前		4			○							兼2	
朝鮮語インテンシブ II	1・2後		4			○							兼3	
朝鮮語スタンダード I	1・2前		3			○							兼1	
朝鮮語スタンダード II	1・2後		3			○							兼1	
朝鮮語ベーシック II	1・2後		3			○							兼1	
コミュニケーション・朝鮮語A	1・2前		2			○							兼1	
コミュニケーション・朝鮮語B	1・2前		2			○							兼1	
コミュニケーション・朝鮮語C	1・2後		2			○							兼1	
コミュニケーション・朝鮮語D	1・2後		2			○							兼1	
朝鮮語セミナーA	1・2前		2			○							兼1	
朝鮮語セミナーB	1・2後		2			○							兼1	
スペイン語スタンダード I	1・2前		3			○							兼1	
スペイン語スタンダード II	1・2後		3			○							兼1	
スペイン語スタンダード III	1・2前		1			○							兼1	
スペイン語スタンダード IV	1・2後		1			○							兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育に関する授業科目	スペイン語ベーシックⅡ	1・2 後		3				○							兼2	オムニバス
	コミュニケーション・スペイン語A	1・2 前		2				○							兼1	
	コミュニケーション・スペイン語B	1・2 後		2				○							兼1	
	スペイン語セミナーA	1・2 前		2				○							兼1	
	イタリア語ベーシックⅡ	1・2 後		3				○							兼1	
	イタリア語セミナーA	1・2 後		2				○							兼1	
	インドネシア語ベーシックⅡ	1・2 後		3				○							兼1	
	外国語スペシャルA	1・2 前		2				○							兼1	
	外国語スペシャルB	1・2 前		2				○							兼1	
	外国語スペシャルC	1・2 前		2				○							兼1	
	外国語セミナーA	1・2 前		2				○							兼1	
	外国語セミナーB	1・2 前		2				○							兼1	
	外国語セミナーC	1・2 前		2				○							兼1	
	外国語セミナーD	1・2 後		2				○							兼1	
	外国語セミナーE	1・2 後		2				○							兼1	
	外国語セミナーF	1・2 後		2				○							兼1	
	小計(76科目)	—		0	190	0			—						兼44	
	健康・スポーツ	健康スポーツ科学実習Ⅰ	1・2・3・4 前・後		1				○							
健康スポーツ科学実習Ⅱ (ソフトボール)		1・2・3・4 前		1				○							兼1	
健康スポーツ科学実習Ⅱ (野外活動)		1・2・3・4 前		1				○							兼1	
健康スポーツ科学実習Ⅱ (剣道)		1・2・3・4 後		1				○							兼1	
健康スポーツ科学実習Ⅱ (ゴルフ)		1・2・3・4 前		1				○							兼6	
健康スポーツ科学実習Ⅱ (バレーボール)		1・2・3・4 前		1				○							兼1	
健康スポーツ科学実習Ⅱ (スキーⅠ)		1・2・3・4 後		1				○							兼6	
健康スポーツ科学実習Ⅱ (スキーⅡ)		1・2・3・4 後		1				○							兼6	
健康スポーツ科学実習Ⅱ (トレーニング)		1・2・3・4 後		1				○							兼1	
健康スポーツ科学実習Ⅱ (バドミントン)		1・2・3・4 前・後		1				○							兼1	
健康スポーツ科学実習Ⅱ (卓球Ⅰ)		1・2・3・4 後		1				○							兼1	
健康スポーツ科学講義		1・2・3・4 前・後		2				○							兼5	
小計(12科目)	—		0	13	0			—						兼17		
情報リテラシー	情報処理概論AⅠ	1・2・3・4 前		2				○							兼1	オムニバス
	情報処理概論AⅡ	1・2・3・4 後		2				○							兼1	
	情報機器操作入門	1・2・3・4 前・後		2				○							兼8	
	情報教育論	1・2・3・4 前		2				○							兼8	
	情報リテラシー	1・2・3・4 前		2				○							兼1	
	ネットワーク機器操作入門	1・2・3・4 後		2				○							兼3	
	情報リテラシー概論	1・2・3・4 前		2				○							兼2	
	UNIXリテラシー演習	1・2・3・4 後		2				○							兼3	
	コンピュータ基礎演習	1・2・3・4 前		2				○							兼3	
	プログラミング基礎演習	1・2・3・4 後		2				○							兼1	
	コンピュータセキュリティ入門	1・2・3・4 前		2				○							兼3	
小計(11科目)	—		0	22	0			—						兼24		
新潟大学個性化科目	地域を探る	1・2・3・4 後		2				○							兼9	オムニバス
	コマ産業論	1・2・3・4 前		2				○							兼1	
	キャリアデザイン	1・2・3・4 前		2				○							兼1	
	平和を考えるB (平和を考える in 新潟)	1・2・3・4 後		2				○							兼2	
	キャリア形成	1・2・3・4 前		2				○							兼1	
	近世越後諸地域の歴史と社会	1・2・3・4 前		2				○							兼1	
	地域から文化を考える	1・2・3・4 後		2				○							兼1	
	水を巡る農の旅	1・2・3・4 前		2				○							兼1	
	地域に生きる思想	1・2・3・4 前		2				○							兼2	
	ボランティア開発論Ⅰ	1・2・3・4 前		2				○							兼2	
	ボランティア開発論Ⅱ	1・2・3・4 後		2				○							兼2	
	ダブルホーム活動演習	1・2・3・4 後		2				○							兼3	
	コミュニティ・インターンシップ	1・2・3・4 後		2				○							兼1	
	学校フィールドワーク	1・2・3・4 後		2				○							兼2	
	考える葦の冒険	1・2・3・4 後		2				○							兼1	
	平和を考えるA	1・2・3・4 前		2				○							兼4	
	キャリアを共に考える-自己理解・他者理解	1・2・3・4 前		2				○							兼1	
	キャリア意識形成と自己成長	1・2・3・4 後		2				○							兼1	
	異文化と技術	1・2・3・4 後		1											兼5	
	研究者の仕事と生活	1・2・3・4 後		1											兼3	
	ユーザのための数学	1・2・3・4 前		2											兼1	
	文字文化論	1・2・3・4 後		2											兼1	
	社会とキャリア選択A	1・2・3・4 前		2											兼2	
	社会とキャリア選択B	1・2・3・4 後		2											兼2	
	大学生のための役に立つ育児学	1・2・3・4 後		1											兼4	
	日本手話A	1・2・3・4 前		2											兼4	
	日本手話B	1・2・3・4 後		2											兼4	
	トキをシンボルとした自然再生	1・2・3・4 後		2											兼2	
	International Relations in the Asia-Pacific	1・2・3・4 前		2											兼1	
	The China-Japan-US Trilateral Relations	1・2・3・4 後		2											兼1	
	シンガポール・スプリングセミナー	1・2・3・4 後		2											兼1	
	中国留学準備講座 サマーセミナー総合編	1・2・3・4 前		2											兼2	
	韓国サマースクールⅠ	1・2・3・4 後		2											兼1	
	韓国サマースクールⅡ	1・2・3・4 後		2											兼1	
韓国サマースクールⅢ	1・2・3・4 後		2											兼1		
共生社会論	1・2・3・4 前		2											兼1		
多文化共生社会体験in AUSTRALIA Ⅰ	1・2・3・4 後		2											兼1		
多文化共生社会体験in AUSTRALIA Ⅱ	1・2・3・4 後		2											兼1		
表現プロジェクト演習D	1・2・3・4 前		2											兼1		
表現プロジェクト演習F	1・2・3・4 前		2											兼2		
表現プロジェクト演習H	1・2・3・4 後		2											兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育に関する授業科目	新潟大学個性化科目	表現プロジェクト演習 I	1・2・3・4 後	2			○							兼1	オムニバス	
	表現プロジェクト演習 J	1・2・3・4 前	2			○							兼1			
	表現プロジェクト演習 N	1・2・3・4 後	2			○							兼1			
	表現プロジェクト演習 P	1・2・3・4 前	2			○							兼2			
	表現プロジェクト演習 Q	1・2・3・4 前	2			○							兼1			
	表現プロジェクト演習 T	1・2・3・4 後	2			○							兼1			
	表現プロジェクト演習 U	1・2・3・4 後	2			○							兼2			
	シンガポール・スプリングセミナー準備講座	1・2・3・4 後	2			○							兼1			
	朱鷺・自然再生フィールドワーク	1・2・3・4 後	1					○	1				兼2			
	北京サマーセミナー I	1・2・3・4 後	2					○					兼2			
	北京サマーセミナー II	1・2・3・4 後	2					○					兼2			
	北京サマーセミナー III	1・2・3・4 後	2					○					兼2			
	リーダーシップ実践演習	1・2・3・4 後	2					○					兼1			
	台湾スプリングセミナー I	1・2・3・4 後	2				○						兼5			
	台湾スプリングセミナー II	1・2・3・4 後	2				○						兼5			
	地理情報システム (GIS) 概論・演習	1・2・3・4 後	2				○						兼3			
	グローバルコミュニケーション	1・2・3・4 前・後	2				○						兼2			
	感情と表象	1・2・3・4 後	2				○						兼11			
	地理情報システム (GIS) 概論・応用演習	1・2・3・4 後	2				○						兼3			
	森・里・海フィールド実習	1・2・3・4 後	1					○	2	1		1	兼4			
	中国語学特殊講義	1・2・3・4 後	2				○						兼1			
	日本文化入門 1	1・2・3・4 後	2				○						兼7			
	ピアサポート入門	1・2・3・4 後	2				○						兼1			
	ダブルホーム活動入門	1・2・3・4 前	2					○					兼1			
	アクティブラーニング I	1・2・3・4 前・後	2				○						兼1			
	アクティブラーニング II	1・2・3・4 前・後	2				○						兼1			
	アクティブラーニング III	1・2・3・4 前・後	2				○						兼1			
	ICT活用と価値の情報化 A	1・2・3・4 前	1				○						兼1			
	ICT活用と価値の情報化 B	1・2・3・4 前	1				○						兼1			
	小計(70科目)	-	0	133	0	-	-	-	9	5		4	-	兼83		
	留学生基本科目	日本語 A	1・2・3・4 前		1			○						兼1		オムニバス
		日本語 B	1・2・3・4 前		1			○						兼1		
		日本語 C	1・2・3・4 前		1			○						兼1		
		日本語 D	1・2・3・4 前		1			○						兼1		
日本語 E		1・2・3・4 後		1			○						兼1			
日本語 F		1・2・3・4 後		1			○						兼1			
日本語 G		1・2・3・4 後		1			○						兼1			
日本語 H		1・2・3・4 後		1			○						兼1			
日本事情人文系 B		1・2・3・4 前・後		2			○						兼2			
日本事情自然系 A		1・2・3・4 前		2			○						兼1			
小計(10科目)	-	0	12	0	-	-	-					-	兼4			
大学学習法	スタディ・スキルズ A 1	1 前		2			○		6	6		5				
	スタディ・スキルズ A 2	1 前		2			○		8	9		1				
	スタディ・スキルズ A 3	1 前		2			○		3	8		5				
	小計(3科目)	-	0	6	0	-	-	-	14	23		11	-			
自然系共通専門基礎	数学基礎 A	1・2・3・4 前・後		2			○							兼5		
	数学基礎 B	1・2・3・4 前・後		2			○							兼3		
	統計学基礎	1・2・3・4 前・後		2			○							兼2		
	物理学入門	1・2・3・4 前・後		2			○							兼1		
	物理学基礎 A I	1・2・3・4 前		2			○							兼5		
	物理学基礎 A II	1・2・3・4 後		2			○							兼4		
	物理学基礎 B I	1・2・3・4 前		2			○							兼4		
	物理学基礎 B II	1・2・3・4 後		2			○							兼1		
	物理学基礎 D	1・2・3・4 後		2			○							兼1		
	化学基礎 A	1・2・3・4 前・後		2			○							兼4		
	化学基礎 B	1・2・3・4 前・後		2			○							兼4		
	化学基礎 C	1・2・3・4 前・後		2			○							兼2		
	生物学基礎 A	1・2・3・4 前・後		2			○							兼4		
	生物学基礎 B	1・2・3・4 前・後		2			○							兼5		
	地学基礎 A	1・2・3・4 前・後		2			○							兼2		
	地学基礎 B	1・2・3・4 後		2			○							兼2		
	地学基礎 C	1・2・3・4 後		2			○							兼2		
小計(17科目)	-	0	34	0	-	-	-					-	兼34			
自然科学	くらしと数理	1・2・3・4 前		2			○							兼4	オムニバス	
	基礎数学 A I	1・2・3・4 前		2			○							兼1		
	基礎数学 A II	1・2・3・4 後		2			○							兼1		
	基礎数学 B I	1・2・3・4 前		2			○							兼1		
	基礎数学 B II	1・2・3・4 後		2			○							兼1		
	基礎数理 A I	1・2・3・4 前		2			○							兼5		
	基礎数理 A II	1・2・3・4 後		2			○							兼5		
	代数・幾何の数理	1・2・3・4 前		2			○							兼1		
	数学の世界	1・2・3・4 後		2			○							兼4		
	極微の世界	1・2・3・4 前		2			○							兼1		
	物質の世界	1・2・3・4 後		2			○							兼1		
	物理学への招待 A	1・2・3・4 前		2			○							兼1		
	物理学への招待 B	1・2・3・4 後		2			○							兼1		
	物理学基礎実験	1・2・3・4 前・後		2										兼5		
	化学実験	1・2・3・4 前		2										兼5		
	生物学-動物 A-	1・2・3・4 後		2			○							兼1		
	生物学-細胞・分子 A-	1・2・3・4 後		2			○							兼1		
	生物学-生物多様性 A-	1・2・3・4 後		2			○							兼2		
	生物学-植物 A-	1・2・3・4 前		2			○							兼2		
	生物学実験 I	1・2・3・4 前		2										兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育に関する授業科目	地球と気象	1・2・3・4 後		2		○								兼1	オムニバス	
	地学C (マagmaと火山)	1・2・3・4 後		2		○								兼2		
	地学E (地球理解の諸相)	1・2・3・4 後		2		○								兼1		
	地学概論A	1・2・3・4 前・後		2		○								兼2		
	地学概論B	1・2・3・4 後		2		○								兼1		
	地学実験A	1・2・3・4 前		2				○						兼2		
	地学実験B	1・2・3・4 前		2					○					兼2		
	地学実験C	1・2・3・4 後		2										兼2		
	ゲノム科学	1・2・3・4 後		2		○				1				兼2		
	数理基礎演習Ⅰ	1・2・3・4 前		1				○						兼2		
	数理基礎演習Ⅱ	1・2・3・4 後		1				○						兼2		
	グリーンケミストリー入門	1・2・3・4 後		2				○						兼4		
	基礎雪氷学	1・2・3・4 後		2				○						兼4		
	生活の化学	1・2・3・4 後		2				○						兼1		
	社会を支える有機化学	1・2・3・4 後		2				○						兼1		
	コンピュータへの招待	1・2・3・4 前		2				○						兼5		
	高福祉社会を支える「生活支援工学」入門	1・2・3・4 前		2				○						兼5		
	最先端技術を支える化学Ⅰ	1・2・3・4 前		2				○						兼8		
	生活を支える化学技術－化学工学への招待－	1・2・3・4 前		2				○						兼3		
	エレクトロニクスへの招待	1・2・3・4 前		2				○						兼9		
	エレクトロニクス入門	1・2・3・4 前		2				○						兼11		
	くらしと環境	1・2・3・4 前		2				○						兼15		
	くらしを支える機械システム工学	1・2・3・4 後		2				○						兼14		
	機能材料化学概論	1・2・3・4 後		2				○						兼4		
	生命と環境の化学Ⅰ	1・2・3・4 前		2				○		3	3			兼4		
	生物資源論	1・2・3・4 後		2				○		2	3			兼4		
	くらしと微生物	1・2・3・4 後		2				○		2	2	1		兼4		
	小計(47科目)	—	—	0	86	0	—	—	—	8	8	—	1	兼140		
	人文社会・教育科学	ビジネス書道入門	1・2・3・4 前・後		2		○									兼1
		フランス語オプショナルA	1・2・3・4 前		2				○							兼1
		ロシア語オプショナルA	1・2・3・4 後		2				○							兼1
		中国語オプショナルA	1・2・3・4 前		2				○							兼1
		朝鮮語オプショナルA	1・2・3・4 後		2				○							兼1
		演劇入門	1・2・3・4 後		2				○							兼1
		音と音楽をめぐる科学的教養	1・2・3・4 前		2				○							兼1
		音楽E	1・2・3・4 前		2				○							兼1
		音楽F	1・2・3・4 後		2				○							兼1
		音楽R	1・2・3・4 後		2				○							兼3
		外国語アネックスA	1・2・3・4 後		2				○							兼1
		外国語アネックスB	1・2・3・4 後		2				○							兼1
		外国語アネックスC	1・2・3・4 後		2				○							兼1
		感性学	1・2・3・4 前		2				○							兼12
		基礎情報論	1・2・3・4 前		2				○							兼1
		技術日本語演習	1・2・3・4 前		2				○							兼2
		教養の心理学	1・2・3・4 前		2				○							兼2
		現代思想論	1・2・3・4 後		2				○							兼1
		現代社会論	1・2・3・4 前		2				○							兼1
社会学とは何か		1・2・3・4 前		2				○						兼1		
社会学的思考法		1・2・3・4 前		2				○						兼1		
宗教思想史入門		1・2・3・4 後		2				○						兼1		
心と社会		1・2・3・4 前		2				○						兼1		
心の科学		1・2・3・4 前		2				○						兼1		
心理学		1・2・3・4 前		2				○						兼1		
心理学概論		1・2・3・4 前		2				○						兼1		
人文社会情報論		1・2・3・4 後		2				○						兼1		
人文超域科目D		1・2・3・4 後		2				○						兼5		
西洋文化研究演習A		1・2・3・4 前		2				○						兼1		
対人行動の心理学		1・2・3・4 後		2				○						兼1		
知識のバルナッソス論		1・2・3・4 前		2				○						兼1		
哲学への招待		1・2・3・4 後		2				○						兼1		
哲学演習		1・2・3・4 後		2				○						兼1		
日本近代文学D		1・2・3・4 前		2				○						兼1		
日本古典文学K		1・2・3・4 前		2				○						兼1		
日本古典文学N		1・2・3・4 後		2				○						兼2		
日本語教育Ⅰ-A		1・2・3・4 前		2				○						兼1		
日本語教育Ⅰ-B		1・2・3・4 後		2				○						兼1		
日本語教育Ⅱ-A		1・2・3・4 前		2				○						兼1		
日本語教育Ⅱ-B		1・2・3・4 後		2				○						兼1		
日本文化論		1・2・3・4 後		2				○						兼2		
日本文化論演習B		1・2・3・4 後		2				○						兼2		
乳幼児心理学		1・2・3・4 後		2				○						兼1		
認知と行動		1・2・3・4 前		2				○						兼1		
紛争の心理学		1・2・3・4 後		2				○						兼1		
文学D		1・2・3・4 後		2				○						兼1		
領域融合・超域科目A		1・2・3・4 前		2				○						兼10		
領域融合・超域科目B	1・2・3・4 後		2				○						兼1			
領域融合・超域科目E	1・2・3・4 後		2				○						兼1			
領域融合・超域科目G	1・2・3・4 後		2				○						兼5			
領域融合・超域科目I	1・2・3・4 後		2				○						兼1			
領域融合・超域科目P	1・2・3・4 前		2				○						兼2			
臨床心理学入門	1・2・3・4 後		2				○						兼1			
歴史学G	1・2・3・4 後		2				○						兼1			
歴史学I	1・2・3・4 前		2				○						兼1			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
教養教育に関する授業科目	歴史学K	1・2・3・4 後		2		○									兼1	オムニバス オムニバス		
	歴史学Q	1・2・3・4 後		2		○									兼1			
	歴史学S	1・2・3・4 後		2		○									兼1			
	歴史学W	1・2・3・4 前		2		○									兼1			
	美術史	1・2・3・4 後		2		○									兼1			
	芸術論入門	1・2・3・4 後		2		○									兼1			
	リーガル・システムA	1・2・3・4 前		2		○									兼9			
	リーガル・システムB	1・2・3・4 前		2		○									兼9			
	日本国憲法B	1・2・3・4 前		2		○									兼1			
	日本国憲法D	1・2・3・4 後		2		○									兼1			
	特殊講義(戦後政治)	1・2・3・4 後		2		○									兼1			
	税法入門	1・2・3・4 前		2		○									兼1			
	まちづくり論入門	1・2・3・4 後		2		○									兼1			
	アジア経済入門	1・2・3・4 前		2		○									兼1			
	ロシア政治経済入門	1・2・3・4 後		2		○									兼1			
	小計(70科目)	—		0	140	0	—										兼75	
	歯学	医学序説Ⅰ	1・2・3・4 前		2		○										兼1	オムニバス
		医学序説Ⅱ	1・2・3・4 後		2		○										兼1	
		健康と医学	1・2・3・4 後		2		○										兼4	
		メディカルサイエンス	1・2・3・4 後		1		○										兼1	
生命倫理		1・2・3・4 後		1		○									兼1			
医事法制		1・2・3・4 後		1		○									兼1			
社会保険		1・2・3・4 後		1		○									兼1			
病院管理学		1・2・3・4 後		1		○									兼1			
医療と画像技術		1・2・3・4 後		2		○									兼7			
医学と医療の歴史		1・2・3・4 後		2		○									兼7			
ケアの基本理念と実際		1・2・3・4 後		2		○									兼11			
先端医学研究概説		1・2・3・4 前		2		○									兼1			
医療と放射線		1・2・3・4 前		2		○									兼6			
医療と法		1・2・3・4 前		2		○									兼7			
医療ボランティア論		1・2・3・4 後		1		○									兼2			
顔		1・2・3・4 後		2		○									兼3			
健康福祉学入門		1・2・3・4 前		2		○									兼14			
新潟発福祉学		1・2・3・4 後		2		○									兼7			
「食べる」		1・2・3・4 前		2		○				2					兼8			
小計(19科目)	—		0	32	0	—			2						兼68			
合計(353科目)			—	4	697	0	—		16	13		5			兼445			

教育課程等の概要(事前伺い)

農学部 農業生産科学科 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
養育教育に関する科目	別紙のとおり (29頁～33頁)													
専門教育に関する授業科目	必修 食料資源問題入門	1前	2			○			2	1		2		オムニバス
	栽培学汎論	1後	2			○				1				
	動物のバイオサイエンス	1後	2			○			3	2		2		オムニバス
	新潟の農業	1後	2			○			2	1		1		兼4 オムニバス
	基礎農林学実習A	2前	2					○	1	1		1		兼4 集中,オムニバス
	食料資源経済学	2前	2			○			1			1		オムニバス
	作物及び園芸学概論	2前	2			○			2	1				オムニバス
	植物遺伝育種学概論	2前	2			○			1					
	植物病理及び栽培環境学	2前	2			○			1	1				オムニバス
	動物生産生理学 I	2前	2			○			1					
	動物生産と環境	2前	2			○				1				
	動物遺伝学	2前	2			○			1					
	卒業論文 I	4前	3					○	9	7		5		
	卒業論文 II	4後	3					○	9	7		5		
小計(14科目)	—	30	0	0	—	—	—	9	7	0	5	0	兼8	—
選択	地域交流サテライト実習	1前		1				○	2	3		1		兼17 集中,オムニバス
	農業生産科学科インターンシップ	1・2・3・4前		2				○		2		1		兼17 集中,オムニバス
	農産物流通論	2後		2			○					1		
	環境保全型農業論	2後		2			○			1				
	国際フードシステム論	2後		2			○		1					
	食品産業論	2前		2			○		1					
	花卉園芸学	2後		2			○			1				
	果樹園芸学	2後		2			○		1					
	植物ウイルス学	2後		2			○			1				
	稲作学	2前		2			○			1				
	作物生理生態学	2後		2			○		1					
	動物の解剖と生理	2後		2			○		1					
	動物生殖学	2後		2			○					1		
	農業生産科学特論 I	2後		2			○							兼1 集中
	農山村調査実習	3前		2								2		オムニバス
	国際フードシステム論演習	3前		2				○	1					
	協同組合論	3前		2			○					1		
	農業経営戦略論	3前		2			○			1				
	アグリビジネス論	3後		2			○		1					
	畑作物学	3後		2			○			1				
	植物組織培養学	3前		2			○			1				
	植物育種学特論	3前		2			○		1					
	植物生産学実験実習 I	3前		3					○	4	4		1	オムニバス
	実地見学	3前		1					○	4	4		1	集中,オムニバス
	応用動物遺伝学	3後		2			○		1					
	動物発生学	3前		2			○		1					
動物生体機構学	3前		2			○			1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育に関する授業科目	選択 家畜人工授精論	3前		2		○							1		
	動物生産学実験実習Ⅰ	3前		5				○	3	2			2		オムニバス
	農業生産科学特論Ⅱ	3前		2		○									兼1 集中
	農業生産科学特論Ⅲ	3前		2		○									兼1 集中
	食料資源政策論	3前		2		○			1				1		集中,オムニバス
	農山村地域経済論演習	3後		2			○		2	1			2		
	流通経済学演習	3後		2			○						1		
	農業経営戦略論演習	3後		2			○			1					
	食品産業論演習	3前		2			○		1						
	農村開発論	3後		2		○			1						集中
	植物分子遺伝学	2後		2		○							1		
	植物病原微生物学	3前		2		○				1					
	蔬菜園芸学	3後		2		○			1						
	作物生産技術学	3後		2		○			1						
	園芸植物繁殖学	3後		2		○				1					
	植物生産学演習Ⅰ	3後		2			○		4	4			1		
	植物生産学実験実習Ⅰ	3後		2				○	4	4			1		オムニバス
	動物生産生理学Ⅱ	3後		2		○			1						
	動物衛生管理学	3後		2		○				1					
	粗飼料利用学	3後		2		○				1					
	乳牛の生産と管理	3前		2		○							1		
	動物生産学実験実習Ⅱ	3後		4				○	3	2			2		オムニバス
	農業生産科学特論Ⅳ	3前		2		○									兼1 集中
	食料資源経済学特論	3後		2		○			2	1			2		オムニバス
	食料資源経済学演習Ⅰ	4前		2			○		2	1			2		
	植物生産学演習Ⅱ	4前		2			○		4	4			1		
	動物生産学演習Ⅰ	4前		2			○		3	2			2		
	食料資源経済学演習Ⅱ	4後		2			○		2	1			2		
	動物生産学演習Ⅱ	4後		2			○		3	2			2		
	海外語学研修	1・2・3・4前後		4				○	1						集中
基礎農力	2前		1											兼1 集中	
応用農力	3・4後		1											兼1 集中	
小計(59科目)		—	0	122	0	—		9	7	0	5	0	兼21	—	
合計(73科目)		—	30	122	0	—		9	7	0	5	0	兼27	—	
学位又は称号	学士(農学)		学位又は学科の分野			農学関係									

教育課程等の概要(事前伺い)

農学部 応用生物化学科 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
す 養 授 業 科 目 に 関	別紙のとおり (29頁～33頁)														
専 門 教 育 に 関 す る 授 業 科 目	必修 微生物学	1前	2			○			1						
	食品化学	1前	2			○			1						
	動物栄養学	1後	2			○				1					
	土壌学概論	1後	2			○			1						
	植物栄養学	2前	2			○			1						
	生物化学Ⅰ	2前	2			○			1						
	有機化学	2前	2			○								兼1	
	物理化学	2前	2			○				1					
	分析化学	2前	2			○				1					
	機器分析化学Ⅰ	2前	2			○			2						オムニバス
	森林化学	2前	2			○				1					オムニバス
	生物化学Ⅱ	2後	2			○			1						兼1
	生物有機化学	2後	2			○									
	動物資源利用学	2後	2			○			1						
	食品衛生学	2後	2			○			1						
	生物機能物質化学	3前	2			○				1					
	応用生物化学概論	3前	1			○			9	9		1			集中,オムニバス
	科学英語演習	3後	2					○	9	9		1			集中
	化学実験	2後	2						3	2					オムニバス
	微生物学実験	2後	2						1	2					オムニバス
	生物化学実験	3前	2						3	2					オムニバス
	生物学実験	3前	2						2	1					オムニバス
	有機化学実験	3前	2								1				オムニバス
	卒業論文Ⅰ	4前	3					○	9	9		1			
	卒業論文Ⅱ	4後	3					○	9	9		1			
小計(25科目)		—	51	0	0		—	9	9	0	1	0	兼1	—	
選 択 必 修	応用微生物学	2前		2		○				1					
	分子微生物学	3前		2		○			1						
	機器分析化学Ⅱ	2後		2		○				1					
	遺伝子工学	3後		2		○				1					
	細胞分子生物学	3後		2		○			1						
	分子生命科学実験	3後		2				○	3	3		1			集中
	分子生命科学演習Ⅰ	4前		1				○	3	3		1			集中
	分子生命科学演習Ⅱ	4後		1				○	3	3		1			集中
	肥料学	2後		2		○			1						兼1
	土壌生化学	2後		2		○				1					
	植物生理学	2後		2		○			1						
	森林資源利用科学	3後		2		○				1					オムニバス
	植物環境応答学	3後		2		○				1					
	土壌植物資源科学実験	3後		2					3	3					集中
	土壌植物資源科学演習Ⅰ	4前		1				○	3	3					集中
	土壌植物資源科学演習Ⅱ	4後		1				○	3	3					集中

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育に関する授業科目	動物資源化学	3前		2		○			1							
	栄養生化学	3前		2		○			1							
	食品機能学	3前		2		○				1						
	食品製造学	3前		2		○				1						
	食品安全学	3後		2		○			1							
	実地見学	3後		1				○	3	3						集中
	食品・栄養科学実験	3後		2				○	3	3						集中
	食品・栄養科学演習Ⅰ	4前		1			○		3	3						集中
	食品・栄養科学演習Ⅱ	4後		1			○		3	3						集中
	環境汚染物質化学	2前		2		○			1							
	飼料学	2・3前		2		○				1						
	酵素化学	3前		2		○			1							
	動物生理化学	3後		2		○			1							
	免疫・血清学	3後		2		○				1						
	醸造学	3後		2		○										兼2 オムニバス
	応用生物化学セミナーⅠ	2・3前		1		○										兼1 集中
	応用生物化学セミナーⅡ	3・4前		1		○										兼1 集中
	新潟の農業	1後		2		○			1	1						兼6 オムニバス
	小計(34科目)	—	0	59	0	—			9	9	0	1	0	兼11	—	
	選択	公衆衛生学Ⅰ	1・2・3・4後		2		○									
公衆衛生学Ⅱ		1・2・3・4前		2		○										兼1
水産製造学		3後		2		○										兼1 集中
食品評価論		3・4後		2		○										兼1 集中
応用生物化学科インターンシップ		2・3前		2				○		2						集中
基礎農林学実習B		2前		1				○								兼7 集中,オムニバス
地域交流サテライト実習		1前		1				○	5	4						兼14 集中,オムニバス
海外語学研修		1・2・3・4前後		4				○	1							集中
基礎農力		2前		1		○										兼1 集中
応用農力		3・4後		1		○										兼1 集中
小計(10科目)	—	0	18	0	—			6	4	0	0	0	兼25	—		
合計(69科目)		—	51	77	0	—		9	9	0	1	0	兼35	—		
学位又は称号	学士(農学)		学位又は学科の分野				農学関係									

教育課程等の概要(事前伺い)

農学部 生産環境科学科(農業工学コース) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
す 教 養 教 育 に 関 す る 授 業 科 目 に 関	別紙のとおり (29頁~33頁)														
専 門 教 育 に 関 す る 授 業 科 目	生産環境科学概論Ⅰ	1前	2			○			2	6		3			オムニバス
	生産環境科学概論Ⅱ	1前	2			○			5	4		3			オムニバス
	情報処理演習	1前	2				○			1		2			オムニバス
	測量学	1後	2			○			1			1			オムニバス
	測量学実習	2前	2					○		2		2			オムニバス
	技術者倫理・自然環境関連法規	3後	2			○			1	3				兼1	オムニバス
	卒業論文Ⅰ	4前	3					○	8	9		6			
	卒業論文Ⅱ	4後	3					○	8	9		6			
	小計(8科目)	—	18	0	0	—	—	—	8	9	0	6	0	兼1	—
コ ー ス 必 修	水と食の環境論	1後	2			○			1	1					オムニバス
	保全生態学	1後	2			○			1						
	土木測量学	2後	2			○				1		2		兼1	オムニバス
	土木測量学実習	2後	2					○				2			オムニバス
	基礎水理学	2後	2			○				1					
	基礎土質力学	2後	2			○			1						
	基礎構造力学	2後	2			○				1					
	農地工学	2前	2			○				1					
	バイオマスエネルギー論	2後	2			○			1	1		1			オムニバス
	基礎農業機械学	2前	2			○				1					
	基礎農業プロセス工学	2後	2			○			1						
	基礎農業情報学	2前	2			○				1					
	農業工学実験	3前	4					○	2	4		3			オムニバス
	農業工学演習	3後	4					○	2	5		3			オムニバス
	地域管理工学	3前	2			○			2	2				兼3	オムニバス
	農業工学インターンシップ	3前	2					○				1			集中
	技術コミュニケーション入門	3後	2			○				1					
	専攻演習	3後	2					○	8	9		6			
小計(18科目)	—	40	0	0	—	—	—	8	9	0	6	0	兼4	—	
選 択 必 修	応用水理学	3前	2			○				1					
	灌漑排水工学	3前	2			○				1					
	流域水文学	2・3前	2			○				1					
	土壌物理学	2前	2			○						1			
	応用土質力学	3前	2			○			1			1			オムニバス
	応用構造力学	3前	2			○				1					
	施設機能工学	2後	2			○				1					
	農村計画学	2後	2			○				1					
	生態環境GIS	2後	2			○				2		1			オムニバス
	リモートセンシング	3前	2			○				1					オムニバス
	応用農業機械学	2後	2			○				1					
	農業機械実習	3前	1					○		1					集中
	応用農業プロセス工学	3前	2			○			1						
	高度化農業技術論	3後	2			○				1					集中
	応用農業情報学	3前	2			○				1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育に関する授業科目	選択必修	農業計測制御論		2		○				1					兼1 集中 オムニバス オムニバス オムニバス 集中 集中 兼4 兼15 兼18
		応用情報処理演習	2前	2			○								
		GIS・リモートセンシング演習	3後	2			○			1		1			
		生産環境基礎数学及び物理	1後	2		○			1	2					
		応用数学	2前	2		○			1						
		基礎農力	2前	1					1						
		応用農力	3・4後	1					1						
		生態系管理演習及び実習	3後	4			○		2						
		基礎農林学実習B	2前	1				○	1	1		1			
		地域交流サテライト実習	1前	1				○	4	3		1			
		小計(25科目)	—	0	47	0	—	—	6	9	0	4	0	兼18	
選択	海外語学研修	1・2・3・4前後		4				1						集中	
	小計(1科目)	—	0	4	0	—	—	1	0	0	0	0		—	
合計(52科目)		—	58	51	0	—	—	8	9	0	6	0	兼23	—	
学位又は称号		学士(農学)		学位又は学科の分野			農学関係								

教育課程等の概要(事前伺い)

農学部 生産環境科学科(森林環境学コース) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
す 養 授 業 教 育 に 関 す る 授 業 科 目 に 関	別紙のとおり (29頁~33頁)														
専 門 教 育 に 関 す る 授 業 科 目	生産環境科学概論Ⅰ	1前	2			○			2	6		3			オムニバス
	生産環境科学概論Ⅱ	1前	2			○			5	4		3			オムニバス
	情報処理演習	1前	2				○			1		2			オムニバス
	測量学	1後	2			○			1			1			オムニバス
	測量学実習	2前	2					○		2		2			オムニバス
	技術者倫理・自然環境関連法規	3後	2			○			1	3					兼1 オムニバス
	卒業論文Ⅰ	4前	3					○	8	9		6			
	卒業論文Ⅱ	4後	3					○	8	9		6			
	小計(8科目)	—	18	0	0			—	8	9	0	6	0	兼1	—
コ ー ス 必 修	森林測量学	2後	2			○				1					オムニバス
	森林測量学実習	3前	2					○	1	1					オムニバス
	森林土壌学	3前	2			○				1					集中
	林道設計実習	3前	1					○		1					集中
小計(4科目)	—	7	0	0			—	1	2	0	0	0		—	
選 択 必 修	保全生態学	1後		2		○			1						
	野生植物生態学	2前		2		○			1	1					オムニバス
	野生動物生態学	2前		2		○			1						
	野生植物生態学実習	2前		2				○	2	1		1			オムニバス
	野生動物生態学実習	2前		2				○	1						
	森林計画学	2前		2		○				1					
	環境砂防学	2前		2		○				1					オムニバス
	森林環境FC実習	2前		1				○	1	1		1			兼1 集中
	造園学	2前		2		○									兼1 集中
	森林再生学	2後		2		○			2						オムニバス
	樹木学	2後		2		○			1						
	森林環境論	3前		2		○			1						
	森林保全学	3前		2		○			1						
	樹木医学	2前		2		○									兼1 集中
	地域交流サテライト実習	1前		1				○	4	3		1			兼15 集中,オムニバス
	水と食の環境論	1後		2		○			1	1					オムニバス
	生産環境基礎数学及び物理	1後		2		○			1	2					オムニバス
	基礎農林学実習B	2前		1				○	1	1		1			兼4 集中,オムニバス
	流域水文学	2・3前		2		○				1					
	斜面災害論	2後		2		○			1						
	環境変動影響学	2後		2		○									兼2 オムニバス
	生態環境GIS	2後		2		○				2		1			オムニバス
	雪氷防災学	3前		2		○									兼1
	リモートセンシング	3前		2		○				1					オムニバス
	森林化学	2前		2		○									兼1
	森林環境インターンシップ	3前		2				○				1			集中
	GIS・リモートセンシング演習	3後		2				○		1		1			オムニバス
	森林資源利用化学	3後		2		○									兼1 オムニバス
森林環境管理学特論	3後		2		○									兼1	
基礎農力	2前		1						1					集中	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育に関する授業科目	選択必修	応用農力		1					1						集中 兼1 兼1 オムニバス オムニバス 兼26 -
		計画系演習及び実習	3・4後	3			○			1		1			
		防災系演習及び実習	2後	3			○			1					
		育林系演習及び実習	2後	3			○		2	1		1			
		持続可能な森林経営演習	3前	4			○		1	1					
		生態系管理演習及び実習	3前	2			○		1	1					
		専攻演習	3後	4			○		2						
		小計(37科目)	3後	2			○		8	9	0	6	0		
選択	海外語学研修	1・2・3・4前後	0	75	0			8	9	0	6	0	兼26	-	
選択	海外語学研修	1・2・3・4前後	0	4	0			1						集中	
	小計(1科目)		0	4	0			1	0	0	0	0		-	
合計(50科目)			25	79	0			8	9	0	6	0	兼27	-	
学位又は称号	学士(農学)		学位又は学科の分野				農学関係								